

第4回 沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会

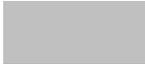
沖縄市交通拠点まちづくり基本計画 (案)

令和8年1月

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

- 1 目的と位置付け
- 2 地域の現状と課題、**関連計画の動向**
 1. **地域の現状と課題**
 2. **関連計画の動向**
- 3 基本計画の方針と施策体系
 1. **各空間スケールの考え方**
 2. **基本計画を実現するための共通の考え方**
 3. 沖縄市交通拠点まちづくり基本計画の方針
 4. 施策と取組案
 5. **役割分担（案）**
- 4 **交通拠点まちづくりの各となる交通結節点**
 1. **交通結節点の整備の方向性**
 2. 交通拠点まちづくりにおける交通結節点に必要な機能
 3. **両側設置案の検討経緯**
 4. **整備イメージ**
- 5 方面別ロードマップ
 1. 沖縄アリーナ方面
 2. 沖縄こどもの国方面
 3. 一番街・八重島方面
 4. 沖縄市役所・コザ方面
- 6 **今後のすすめ方**

凡例

-  追加・修正
-  更新

本市では、交通拠点まちづくりに関する基本構想である「沖縄市交通拠点整備基本構想」を令和6年6月に策定した。

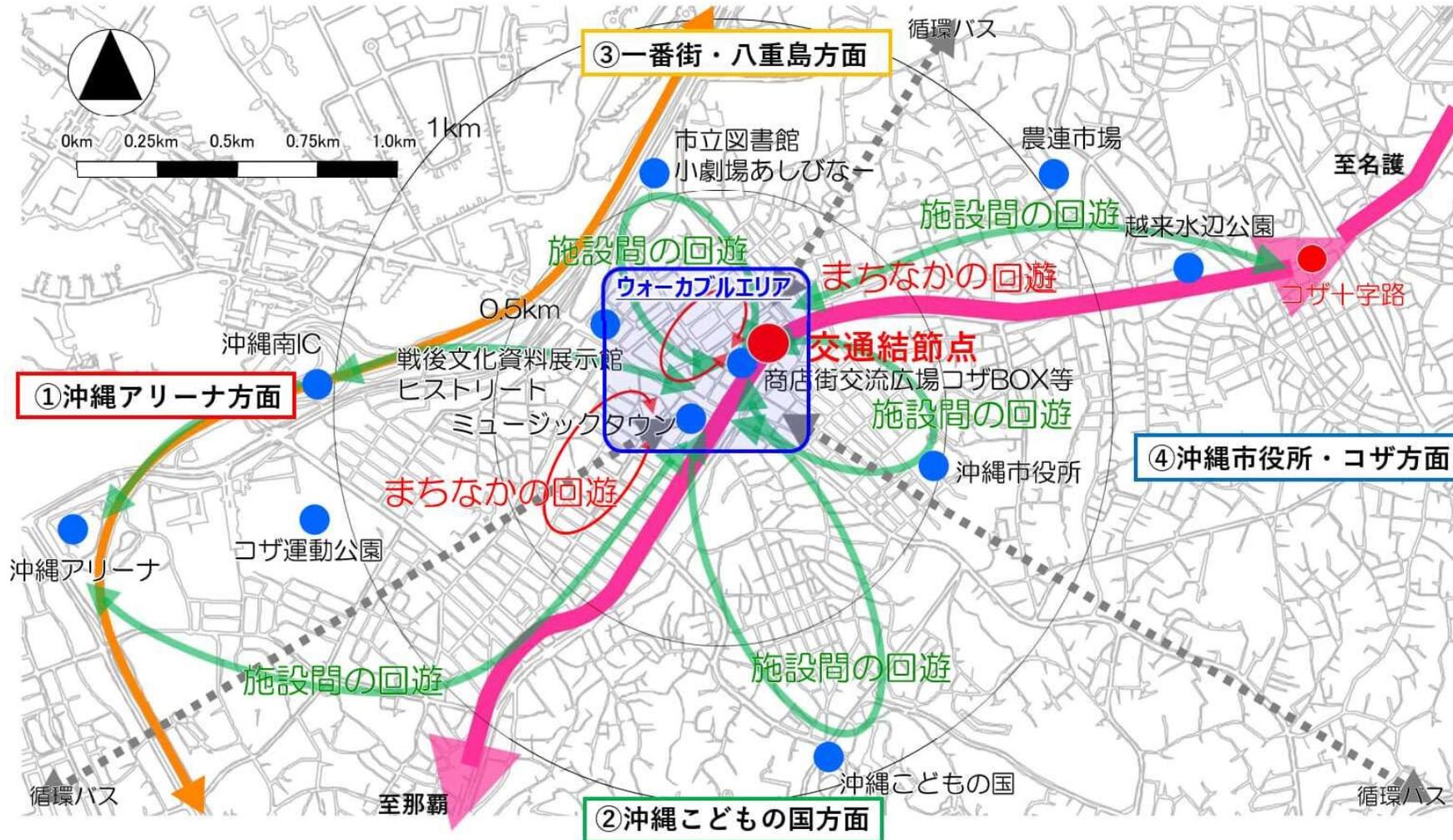
本計画は、上記基本構想を踏まえ、交通拠点(エリア)の形成と周辺まちづくりに寄与する施策について、地域住民及び関係者の意見を踏まえながら整理・具体化し、実効性のある計画として「沖縄市交通拠点まちづくり基本計画」を取りまとめるものである。

本計画では、まちづくりの観点から交通結節点(バスタ等)の考え方を整理したうえで、交通結節点を核とした交通拠点まちづくりの目標と取組を明確化し、施策の体系化を図るとともに、市民・行政・教育研究機関・企業等が連携して取組を進めるための指針(手引き)となることを目指す。

1 目的と位置付け

基本計画の対象エリア

- 交通結節点を中心に、沖繩サントリーアリーナからコザ十字路を含む4方面及びウォーカブルエリア。



用語の定義

交通拠点：交通結節点を中心とする中心市街地エリア(約2km圏)

交通結節点：交通、交流等、防災などからなる交通結節強化の範囲

地域の現状と課題

- 交通拠点まちづくりに関する基本構想である「沖繩市交通拠点整備基本構想」では、課題等を整理。

沖繩市胡屋地区における交通の現況

【現況】

- 胡屋十字路周辺は、三大都市圏に近い渋滞傾向にある。
- 市民は沖繩本島中南部都市圏よりも車利用の割合が多い。
- 本市の自動車保有台数は増加。
- 胡屋バス停は路線バス利用者が市内で最も多く、通過する系統が集中。
- 市全域を運行している循環バスが、胡屋地区を經由。
- 胡屋地区周辺には沖繩南ICが位置している。
- 市民は路線バス利用も念頭にある一方、バス利用は利便性に問題があるとの認識。

まちづくり・活性化(交通視点からの整理)

居住

【ポテンシャル】

- 市の人口は増加傾向。
- 胡屋地区の人口は近年微増の傾向。
- 本地区は、昭和56年以前の建物(更新時期の建物)が多く、新築も数件みられる。
- 本市は中心市街地の居住促進事業を実施。
- 土地区画整理事業を実施。

【懸念事項】

- 居住環境向上による人口の増加、自動車保有台数の増加による市内の交通渋滞の悪化。
- 渋滞回避車両の生活道路への流入による、事故の増加。
- 高齢化の進展に伴う、事故の増加。

【課題】

- 公共交通利用促進。
- 生活道路への通過交通対策。

商店街活性化・集客施設との連携

【ポテンシャル】

- 胡屋地区は市内商店街の内、営業店舗数が最も多く、新規出店も見られる。
- 来訪目的として飲食が目立ち、歩行者数が他商店街より多い。
- 胡屋地区商店街と沖繩アリーナで連携した取り組みが実施されている。
- 集客施設(観光含む)が周辺に立地。
- 中の町と一番街の回遊性を確認。

【懸念事項】

- 車(レンタカー)での来訪が多くなることによる、交通渋滞の悪化。
- 駐車場を探す際のうろつき交通発生による、事故の増加。

【課題】

- 公共交通利用促進。
- 周辺施設移動支援。(シェアサイクル、小型モビリティ等)
- 居心地がよく歩きたくなるまちなかの推進。

【今後考慮していく視点】

- ユニバーサルデザイン
- 高齢、障がい福祉
- 景観
- 防災
- ICT技術等
- 交流
- ゼロカーボンシティ

関連計画の動向

- 交通結節点の整理にあたり、上位・関連計画へ位置付けられている箇所の整理。

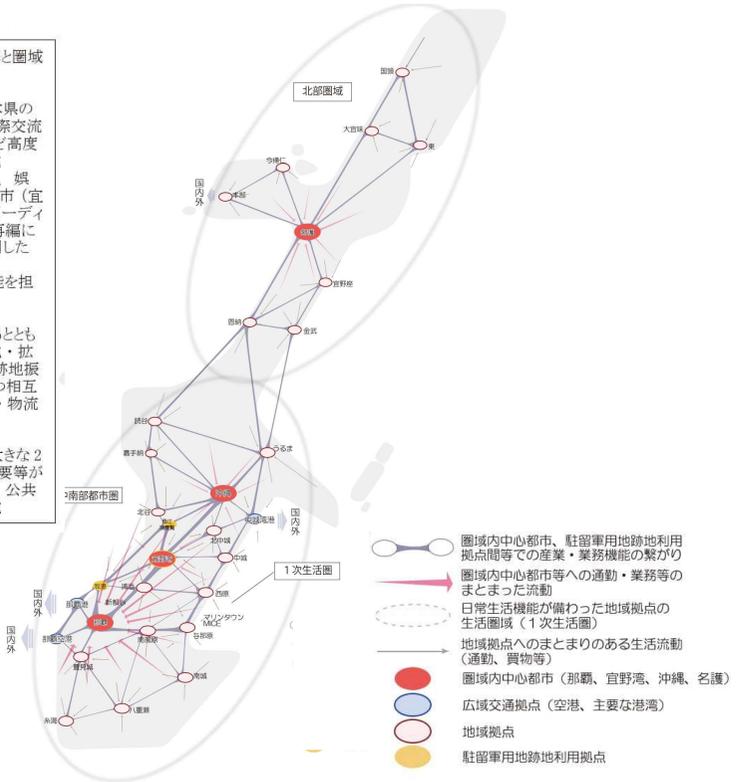
沖縄県総合交通体系基本計画(令和4年10月策定)

- 本県の交通体系のマスタープランである。公共交通の持続可能性の確保に向け将来ネットワーク等が位置づけられている。
- 交通結節点の位置づけとして、シンボルとなる「駅」のような各公共交通機関等、人やモノが集まる拠点となる環境整備が必要。

- 拠点間の多様な活動を支える骨格的な交通軸の方向性を示す。
- 南北骨格軸は、県民の定常活動、産業・物流の活動、観光の活動を担う。
- 圏域内中心都市(那覇、宜野湾、沖縄、名護)を示す。

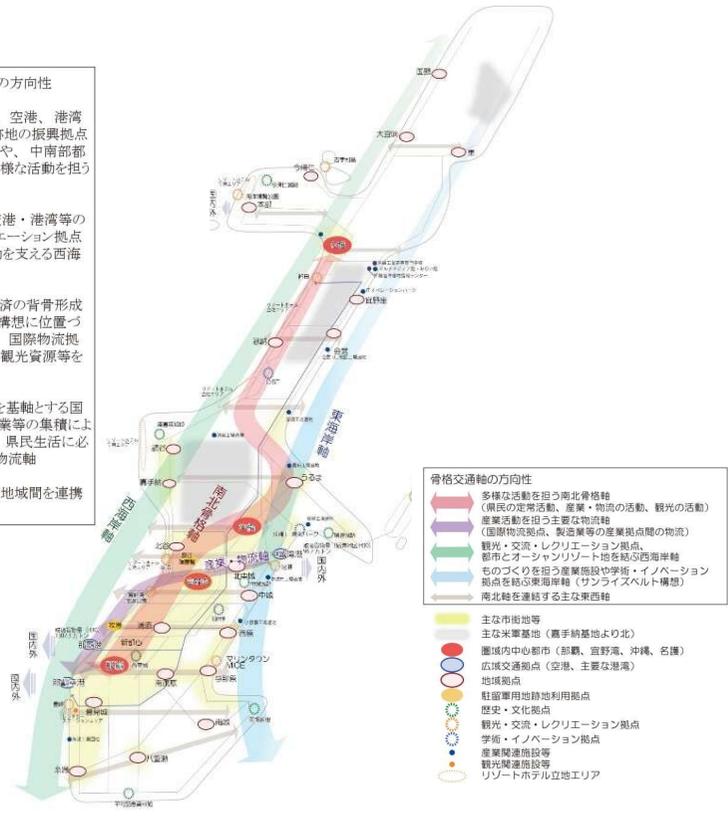
■多様な拠点の展開等による機能連携と圏域構造の方向性
(拠点機能)

- 3次生活圏の核である那覇市は、本県の行政、産業等の機能が集積し、国際交流都市機能や臨空・臨港都市機能など高度な都市機能を有する拠点都市を形成
 - 2次生活圏では就業、買物、医療、娯楽などの生活を支える圏域内中心都市(宜野湾、沖縄、名護)、次世代を担うリーディング産業の振興拠点や県土構造の再編につながる駐留軍用地跡地を有効利用した拠点を形成
 - 1次生活圏では多様な住民生活機能を担う地域拠点を形成
- (拠点間の連携)
- 空港、港湾との連携を特に強化するとともに、広域交通拠点としての機能強化・拡充を図り、拠点都市、駐留軍用地跡地振興拠点間の機能を相乗的に高めつつ相互に支援できるように各地域間の産業・物流等で多様な連携を強化
- (拠点を中心とした圏域)
- 拠点都市を中心に、通勤等による大きな2次生活圏を形成。これにより交通需要等がある程度まとまった方向に集約され、公共交通を利用しやすい需要構造を形成



■多様な活動を支える骨格交通軸の方向性
(南北骨格軸)

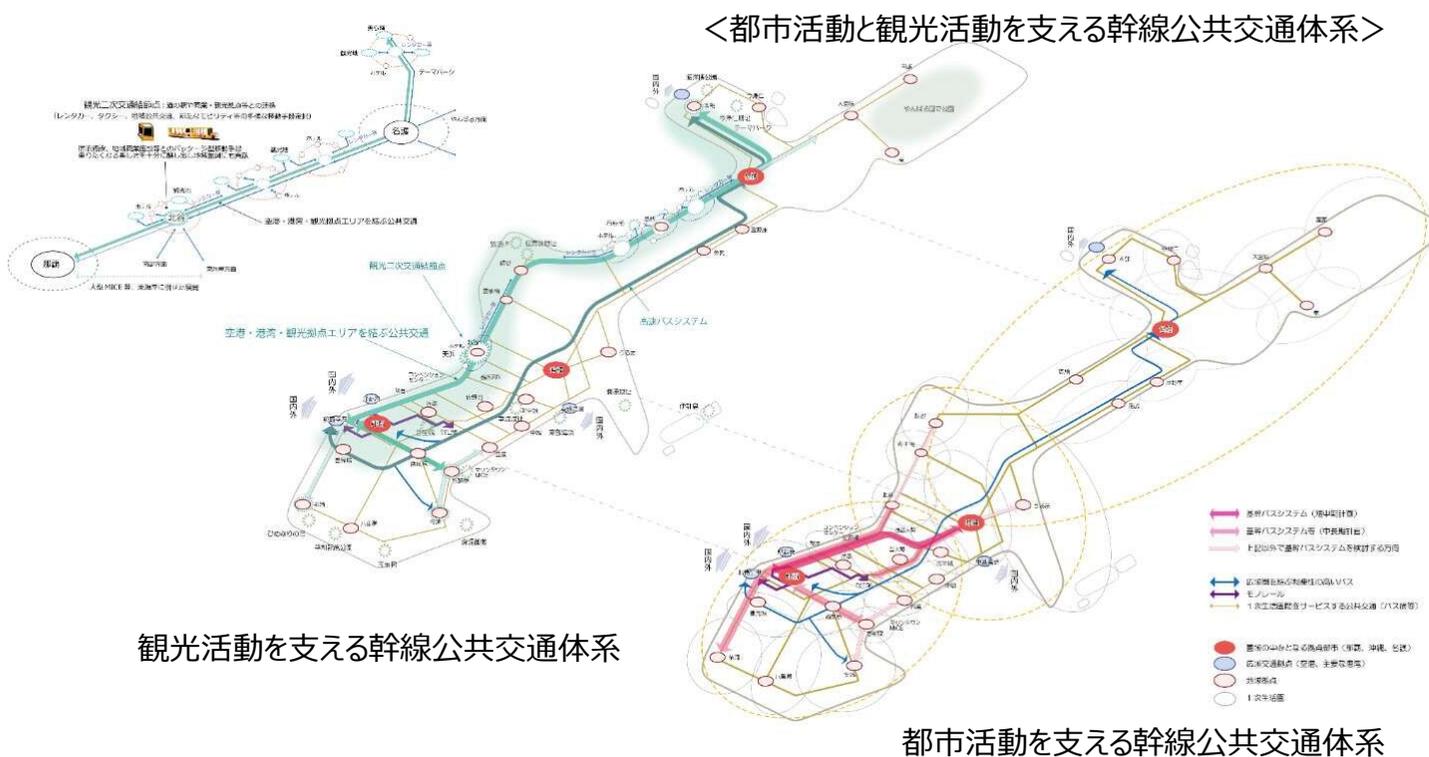
- 那覇、沖縄、名護の拠点都市、空港、港湾の広域交通拠点、駐留軍用地跡地の振興拠点の相互間等での多様な産業活動や、中南部都市圏の南北軸上市街地内での多様な活動を担う骨格軸
- (西海岸軸) 本島西海岸に連担する都市、空港・港湾等の振興拠点、観光・交流・レクリエーション拠点間の多様な活動、観光交流活動を支える西海岸軸
- (東海岸軸) 西海岸軸とは異なるもう一つの経済の背骨形成に向けた東海岸サンライズベルト構想に位置づけられ、MICE、IT津梁パーク、国際物流拠点産業集積地、海洋レジャー、観光資源等を連携する東海岸軸
- (産業・物流軸) 那覇空港、那覇港、中城湾港を軸とする国際物流拠点の形成と国際物流産業等の集積により取り扱われる貨物や企業活動、県民生活に必要な物資の流動を支える産業・物流軸
- (東西軸) 南北軸相互を結節し、本島東西域間を連携する東西軸



関連計画の動向

沖縄県地域公共交通計画(令和6年5月)

- 地域公共交通の未来を育むための根幹的な視点とした施策が示されている。



施策1

- 中南部都市圏の骨格軸を形成する基幹バスシステムの導入

施策2

- 拠点都市を中心とした都市内公共交通体系の構築
- 拠点都市におけるまちづくりと連携した交通結節点の拡充・整備

施策3

- 市中心部・中心地における交通まちづくりの重点的な検討

関連計画の動向

沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査(第4回)

- 将来の公共交通ネットワークの整備方針には、那覇-宜野湾-沖縄を中心とする都市圏骨格軸、那覇-沖縄市間は専用走行空間の構築を示す。
- 都市骨格上に位置する都市拠点やその他重要拠点をつなぐ道路が示され、高規格幹線道路と合わせてハシゴ道を構築し都市圏骨格軸としての南北移動とそれを横断する東西の移動を確保を示す。

3. 都市交通マスタープランの方針と内容

将来の交通ネットワーク：公共交通ネットワークの整備方針



◆ 公共交通ネットワークの整備方針

■ 南北骨格軸等を担う強力な公共交通

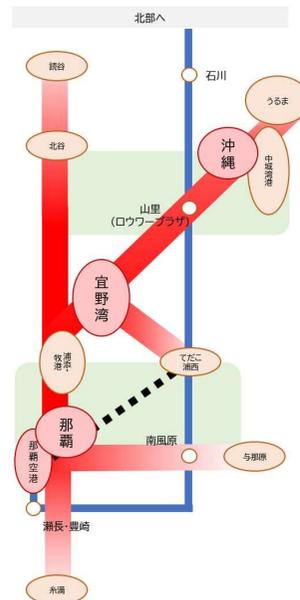
- 那覇-宜野湾-沖縄を中心とする都市圏骨格軸やその他の都市軸を強力に結び、高い輸送力を持つ公共交通。
- 専用空間などの整備により、高速・高頻度かつ定時性の高い交通を実現
- 特に那覇-沖縄市間は需要も大きいため、自動車の混雑の影響を受けない専用走行空間を構築して安定性を確保
- 観光需要も考慮して、西海岸北谷方面も強力に推進

■ 高速道路を走行する公共交通

- より速達性が高く、目的地間を直接結ぶ高速バス
- 乗換拠点を設定し、他の公共交通と結節することで、長距離移動・北部への移動の円滑化を実現

■ 都市拠点周辺をサービスする公共交通

- 都市拠点周辺の拠点間の移動円滑化や交流を促進する新たな公共交通
- 都市拠点周辺の移動を支える高頻度で利便性の高い公共交通



23

3. 都市交通マスタープランの方針と内容

将来の交通ネットワーク：道路ネットワークの整備方針



◆ 道路ネットワークの整備方針

■ 物流・観光をはじめとする長距離トリップのための道路

- 高規格幹線道路の整備によって通過交通の流入を抑制する区域

■ 都市骨格軸上に位置する都市拠点やその他の重要拠点をつなぐ道路

- 高規格幹線道路と合わせてハシゴ道を構成し、都市圏骨格軸としての南北移動と、それを横断する東西の移動を確保



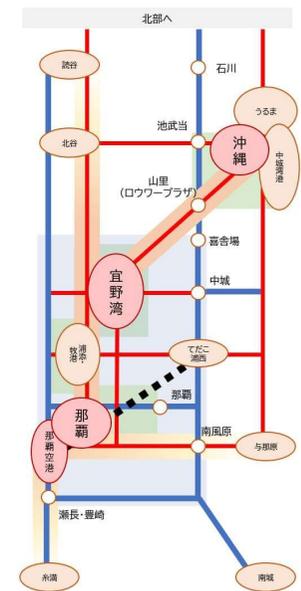
- ハシゴ道路をスムーズに連絡するIC・SICを整備

■ 公共交通の快適な走行を支える道路空間

- 既存の道路空間を自動車と公共交通が共存する空間に再編

■ 都市拠点を形成する環状道路

- 那覇・沖縄・普天間・牧港などの都市拠点の外周を囲う環状道路
- 市街地内への交通流入を抑制



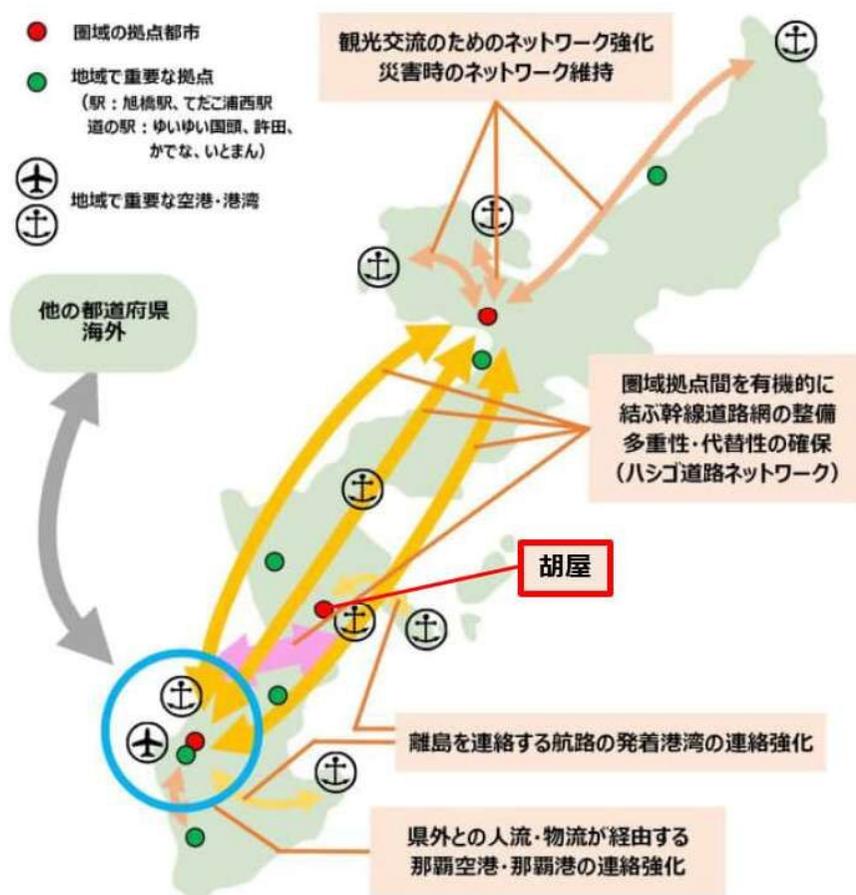
25

関連計画の動向

沖繩ブロック新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画

- 5つの将来像実現に向けて沖繩地域の広域的な道路交通に関する基本方針を示す。

< 将来像の実現に向けた広域道路ネットワークの基本方針 >



1. 拠点連携を支える広域的交通ネットワークの強化

- 広域的な交通ネットワークの強化
- 地域の拠点となる港湾・空港、産業拠点などを結ぶネットワークの整備
- 基地返還跡地に関する道路ネットワークの整備

2. 観光・交流のための魅力的な交通 基盤の実現

- 空港・港湾から観光地への道路ネットワークの充実
- 観光・交流のためのネットワーク強化
- 良好な道路景観、賑わいの形成
- 訪日外国人ドライバーの視点での安全性向上

3. 人に優しい交通体系の構築

- 渋滞がない道路ネットワークの整備
- 生活道路の交通安全対策
- 沖縄全域での日常生活を支える道路整備
- 公共交通の利用促進
- 交通拠点の整備

4. 災害に強い交通ネットワークの構築

- 災害時の広域道路ネットワークの維持(耐震対策)
- 沖縄における道路警戒計画
- 防災拠点の整備

5. ICTを活用した交通マネジメント

- メンテナンス分野のマネジメント
- 観光交通、渋滞対策へのICT、IoT、ビッグデータの活用
- 島しょ地域を活かした先進的、実験的な取組の導入

関連計画の動向

第2期沖縄市総合交通戦略 (平成29年度策定、令和5年度改定)

- 胡屋、コザ交差点が交通結節点に位置づけられている。

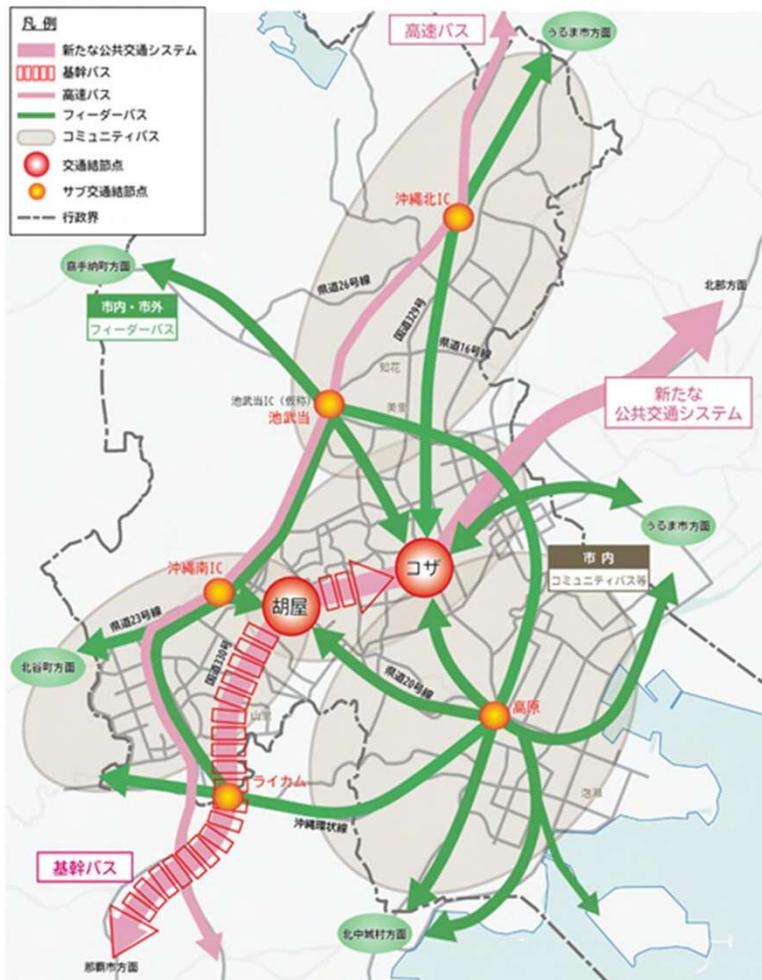
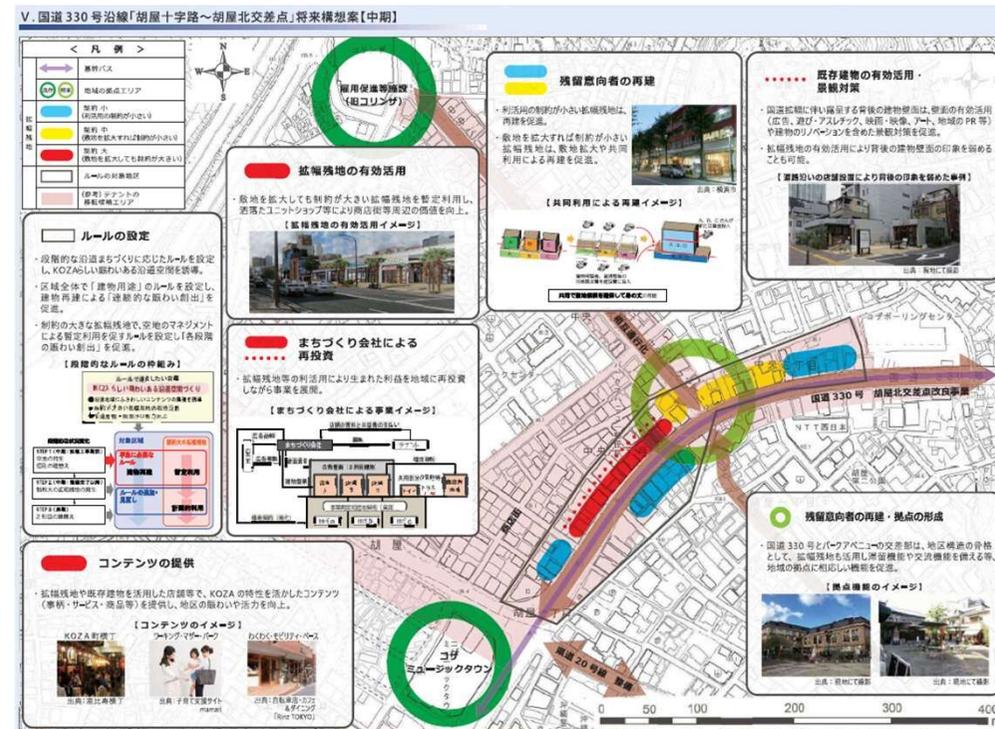


図 将来公共交通ネットワーク

その他計画～国道330号沿線

「胡屋十字路～胡屋北交差点」沿道まちづくり～

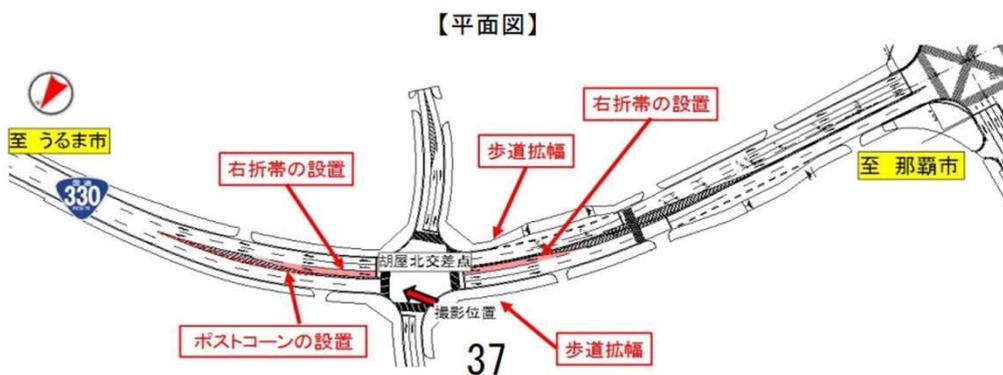
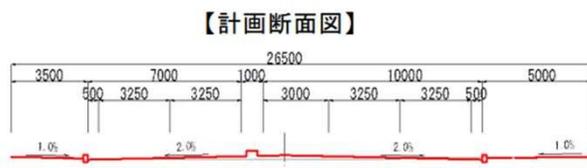
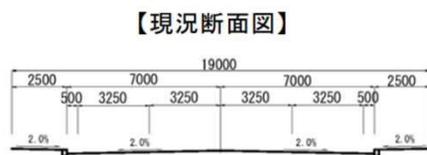
- 国道拡幅に伴う沿道まちづくりについて、変化に対応しながら目指すべき将来像及び官民それぞれが担うべき役割等をまとめた沿道まちづくりビジョン(案)を作成した。



関連計画の動向

その他計画 ～胡屋北交差点改良事業～

- 胡屋北交差点において、交差点改良(右折帯の設置及び歩道の拡幅等)を行い、事故低減を図るもの。



～中央パークアベニュー～

- 中央パークアベニューを相互通行の2車線で整備。
- 現在の幅員4mの歩道は確保する(アーケード部分)。

●中央パークアベニューを相互通行とし、2車線で整備する。
●相互通行にしても、現在の幅員4mの歩道は確保される(アーケード部分)

図 溜まり空間の整備イメージ

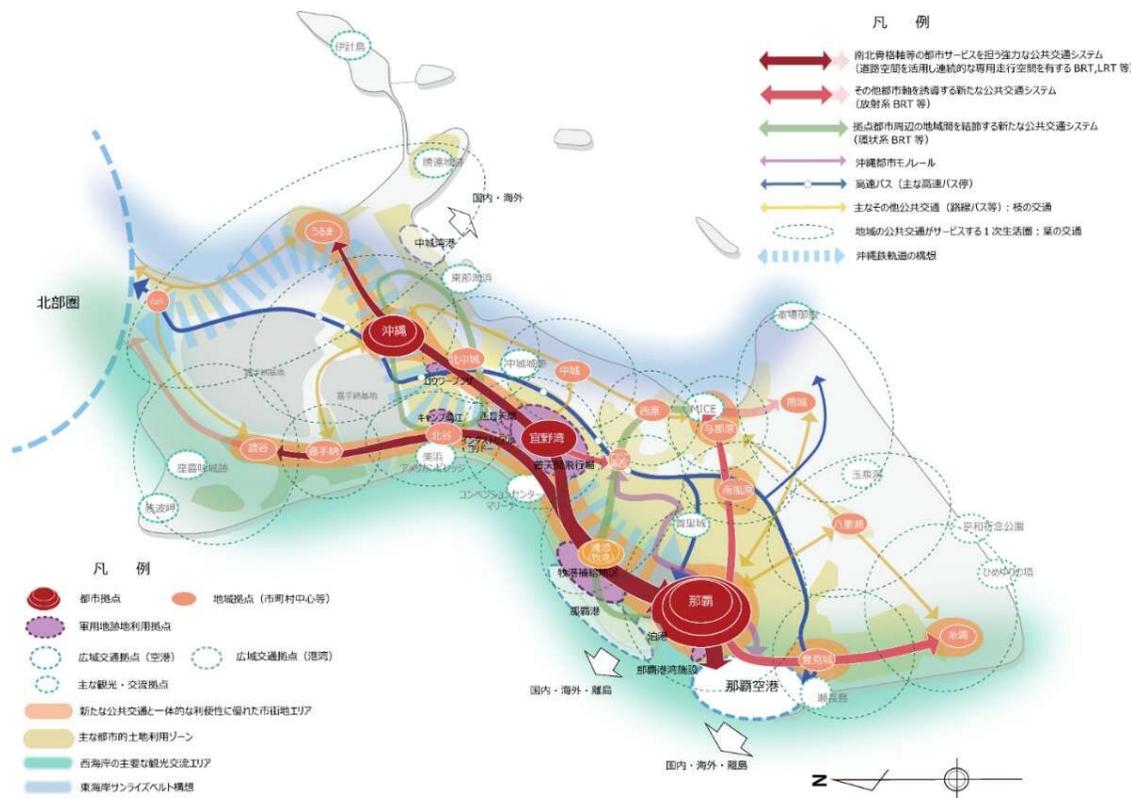
図 整備イメージパース(H23 報告書)

各空間スケールの考え方

- 本計画は、中南部都市圏における沖縄市の広域的な拠点性を踏まえ、都市間ネットワーク（基幹バス等）と接続する交通結節点を核として、交通拠点における拠点形成と周辺まちづくりを一体的に推進するものである。交通結節点は、広域移動と地域内の回遊・滞在をつなぐ“結び目”として機能し、その効果を拠点エリア全体へ波及させることを目指す。以下に、広域—交通拠点—交通結節点の関係を整理する。

広域スケール（中南部都市圏・都市間ネットワーク）

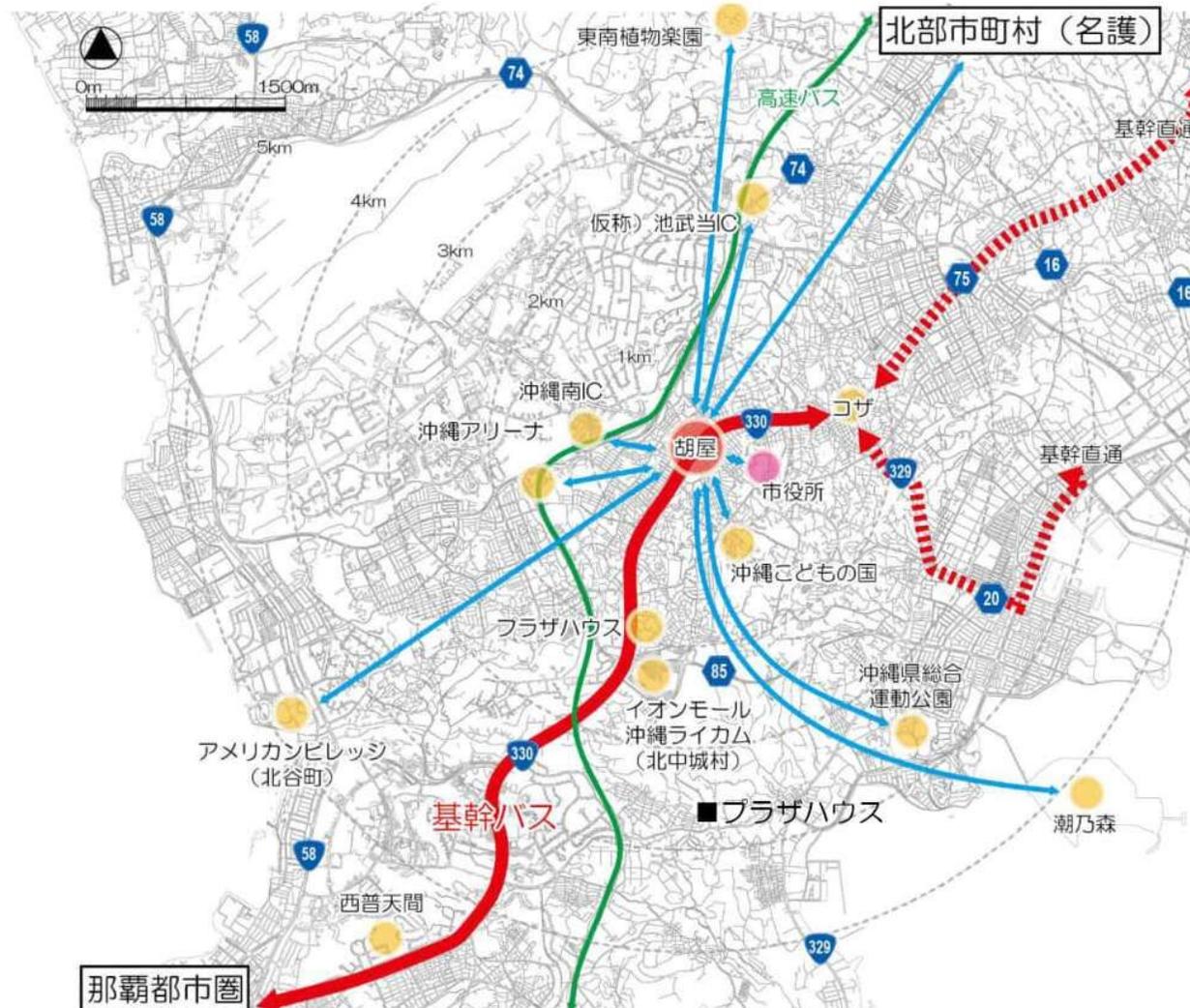
- 沖縄市は、中南部都市圏における都市拠点として、那覇方面を含む都市間移動の受け皿となる役割を担う。
- 沖縄市では「胡屋」を、基幹バス等の広域公共交通ネットワークとの接続を前提に、通勤・通学・通院・買い物といった日常移動に加え、観光・イベント等の来訪需要も含めた多様な移動を支える「都市間交流拠点」として位置づけている。



3 基本計画の方針と施策体系

広域スケール（中南部都市圏・都市間ネットワーク）

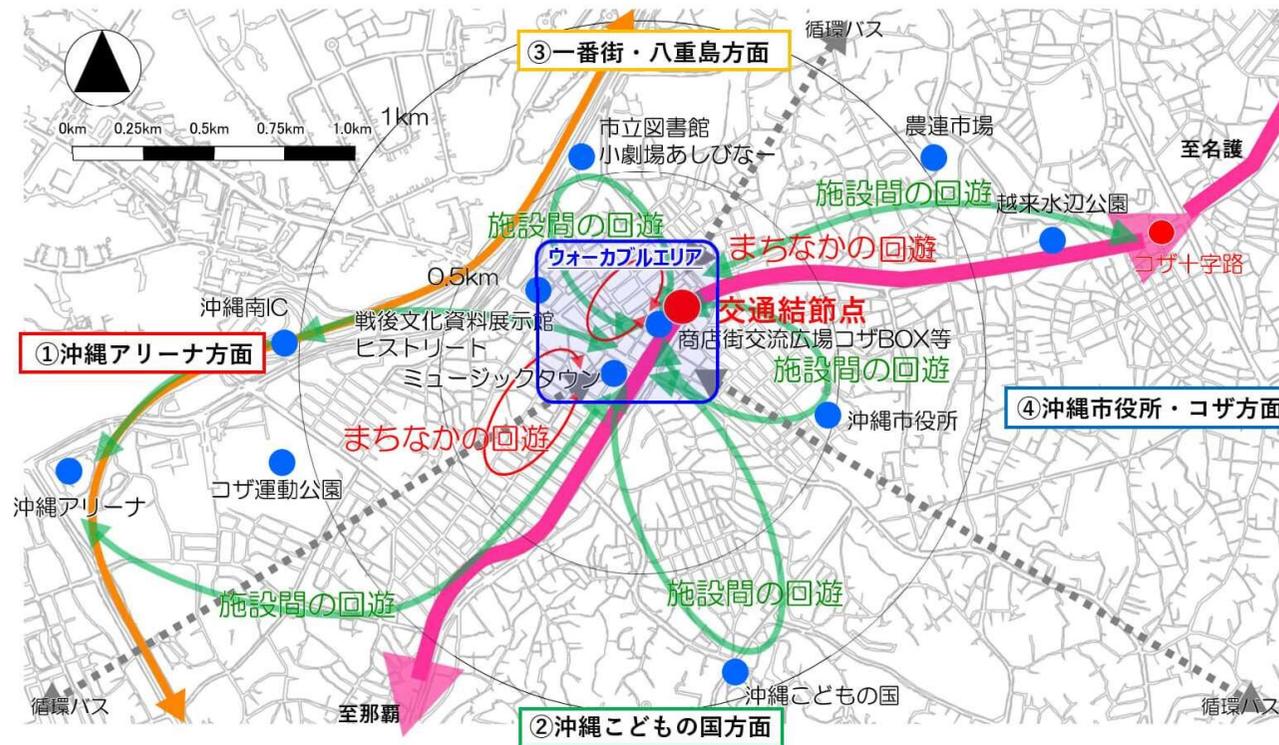
- 「胡屋」交通結節点は、圏域の拠点都市として、中部都市圏、那覇都市圏、北部市町村等を結んでいる。中部地域の中心とした広域交通、物流・観光における、地域間の交流活性化、産業振興の広域的なネットワークとして位置づけられている。



3 基本計画の方針と施策体系

交通拠点（沖繩市の拠点）

- 交通拠点は、交通結節点を核に、沖繩アリーナからコザ十字路を含む4方面等を対象とする面的な拠点であり、本計画において、交通とまちづくり施策を束ねて展開する単位である。この交通拠点の中でも、交通結節点を中心とした概ね300～500m圏をウォークブルエリア（重点範囲）として位置づけ、歩いて巡れる回遊ルート（通り・広場・歩行空間等）と滞在の場を連続させることで、日常の使いやすさと来訪時の回遊・賑わいを高め、拠点全体へ波及させることを目指す。



交通結節点

- 交通結節点は、広域ネットワーク（基幹バス等）と交通拠点内の移動・回遊をつなぐ“結び目”であり、交通拠点まちづくりの核となる施設である。単なる乗降場にとどまらず、分かりやすい乗継・案内、待合等の利用者サービス、多様な交通手段との連携、交流・滞在の受け皿、防災対応等を備えることで、利便性の向上とともに、ウォークブルエリアを中心とした回遊性・賑わい・安心の創出を支える。

基本計画を実現するための共通の考え方

- 交通拠点まちづくりを進めるための共通の考え方(共通ルール)としてデザインコードを位置付ける。

デザインコードとは

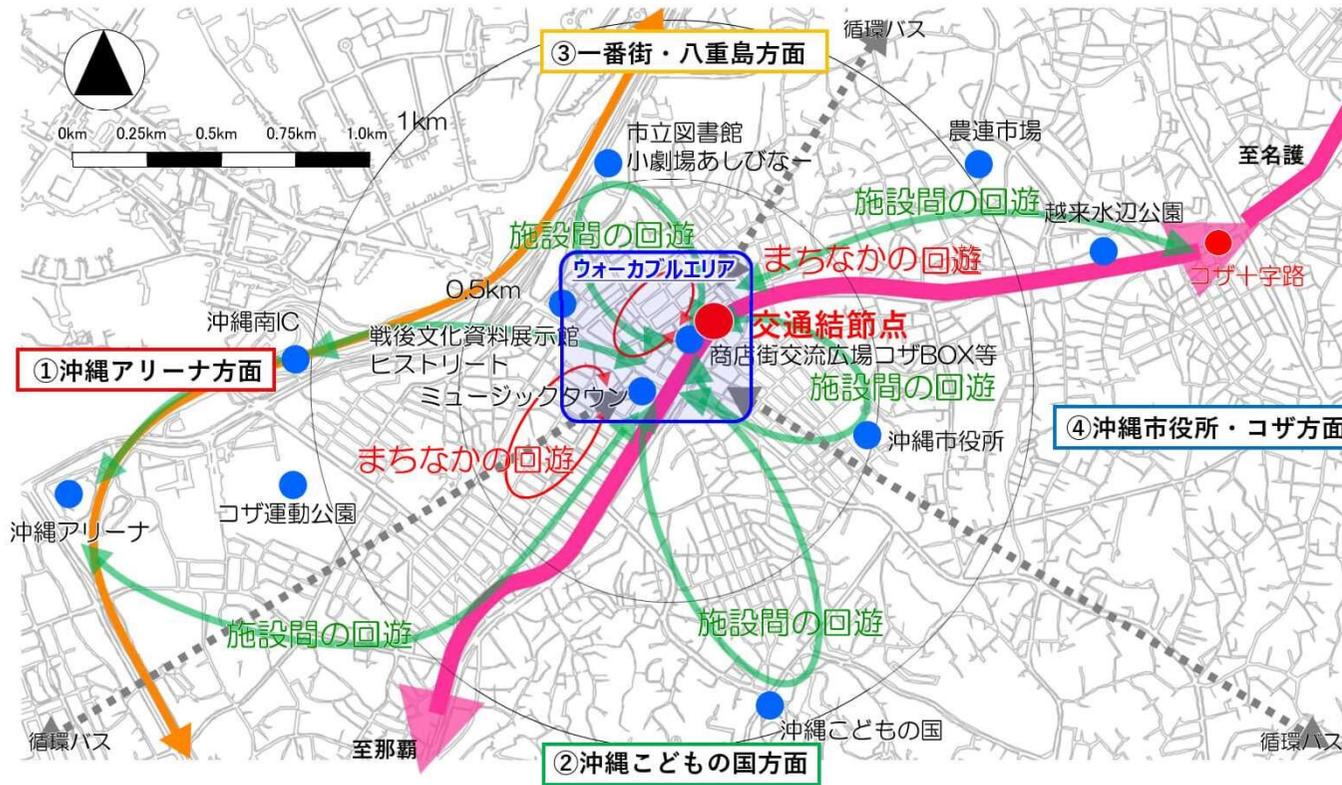
デザインコードとは、交通結節点を核とした交通拠点エリア全体について、空間の整え方や使いこなしの考え方を言語化した指針である。公共空間や沿道空間のしつらえ、回遊・滞在の導入、情報提供や歓迎の演出、日常利用と来訪需要の受け止め方などを共通言語として整理し、市民・行政・教育研究機関・企業等が連携して取組を進めるための基盤とする。あわせて、沖縄の気候風土やまちなみの成り立ちに根ざす地域固有の空間特性を踏まえた空間の整え方を共有する。これにより、交通機能と滞在・交流の価値を重ね、コザらしい「文化と交通の再接続」を促す。



3 基本計画の方針と施策体系

基本計画を実現するための共通の考え方

胡屋・中央地区の交通結節点の役割



【エリア内の回遊性を高める役割】

胡屋・中央地区の交通結節点を起点として、周辺に点在するスポーツ・行政・文化・商業などの多様な拠点をシームレスに結び、都市全体を巡る回遊の骨格を形成する。

【隣接する空間を結びつける役割】

アイコンニック(象徴的)な空間を形づくる・中央パークアベニューやパルミラ通り、ゲート通り、くすの木通りといった街路空間をにじみあう空間として繋ぎ合わせ、居心地のいい空間を形成する。

【中心性を高める役割】

沖縄アリーナやコザ運動公園、八重島公園や沖縄こどもの国といったスポーツ・自然・歴史の拠点の中心として、多様な活動を受け止め、地域全体をつなぐ空間として機能する。

【都市の重心をつくる役割】

交通結節点を、単なる乗降・待合の場にとどまらず、日常の滞在・交流・情報提供と、イベント時の来訪需要の受け止めを両立する都市の広場(公共空間の核)として位置付ける。交通機能に広場機能を重ねることで、まちの「重心」となる居場所を形成し、周辺の商店街・街路・公共空間へ賑わいがにじむ拠点を創出する。

デザインコード1：コザまちまーいを育む空間

- 都市の骨格を受け止め、隣接する空間を「にじみあう場」として結び、広がる空と緑の中に、路地(すーじぐわー)や軒下(あまはじ)等の半屋外の間領域、小さな溜まりが連鎖する居心地のよいまちまーい(まち歩き)を創り出す拠点を描く。

【空が大きく広がる風景】



国道330号

【沖縄らしい緑の風景】



中央パークアベニュー

- 建築や工作物のボリュームを抑制することを基本原則とし、空の広がりや開放感を直感的に感じられる見通し(抜け)を骨格として形成する。

- 強い日差しや風雨から人々を守るヤシの木陰や緑陰、ブーゲンビリアの彩り。軒下(あまはじ)等の半屋外の間領域は、人々に休息と語らいの場を提供するとともに、小さな居場所が連鎖する風景として、コザの文化や記憶を継承する風景を創り出す。

デザインコード2：生き生きとしたコザの表情に溶け込ませる

- 中央パークアベニューからゲート通りまでをつなぐ連続的な歩行環境を整え、アーケード等の半屋外歩行空間や沿道の軒下空間を活かしながら、都市を横断する動線を自然に受け止める豊かな歩き空間をつくる。

【各地区の特色の融合】



ゲート通り



くすのき通り

出典：琉球新報



パルミラ通り



中央パークアベニュー

- アイコニック(特徴的)なストリートや、奥行きと親しみやすさを持つ小さな路地(すーじぐわー)。それぞれの多様な表情が沖繩市のまちの個性を形づくる。
- それらを対比させつつ緩やかににじませ合うことで、地域全体の魅力を浮かび上がらせる。アーケードや沿道の軒下(あまはじ)等の半屋外空間も含め、生き生きとしたコザの風景に自然と溶け込む空間を描き出す。

デザインコード3：小さな体験が紡ぐコザ・ライブスケープ

- 点在する文化や歴史の拠点を大切にし、琉米文化が織りなす小さな風景を重ね合わせて「コザらしさ」を紡ぎ出す拠点とする。

【コザんちゅのコミュニティの場】



シアタードーナツ

【写真や映像で紡ぐ生きた景観】



プラザハウス

- 幅広い世代に親しまれる文化拠点を軸とすることで、日常の暮らしと文化が自然に重なり合う風景を育む。コザに根差した、居場所が点在する人々が立ち寄りやすい文化空間の体験を可能とする。
- まちの営みや人々の記憶をとどめ、世代を超えて共有される文化資産としての写真・映像。これらは空間そのものに奥行きとリズムを与え、コザ全体を「物語を紡ぐ舞台」として歩きながら立ち止まって感じられる場とする。

デザインコード4：チャンプルー文化を許容する寛容な空気感

- エイサーやストリートスポーツ、日常の営みが交わり、静けさと賑わいが同居する、寛容で受け皿の広いコザ特有の空気感を育む。
- 交通結節点を都市の広場として捉え、移動の効率性と文化的厚みが同居する場として、多様な活動を受け止めていく。

【力強いエイサーやスケートボードの風景】



- エイサー太鼓の響きと、街に溶け込む多様なストリートスポーツの躍動感。そこには琉球伝統と輸入された文化とがチャンプルーされた、世代を超えて共有されるエネルギーがある。
- これらの多彩な活動は、建物の間小さな余白や広がりのある余白を舞台とし、自然と人々を惹きつける。
- その風景は、日常のコザを、地域の人々だけでなく来訪者にも開かれた「誰もが関われる舞台」として育んでいく。

出典：コザまちマガジン

沖縄市交通拠点まちづくり基本計画の方針

沖縄市交通拠点 整備基本構想

K
O
Z
A
の
み
ん
な
で
つ
く
る
活
力
に
満
ち
た
ま
ち

【方針①】
だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

【方針②】
まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

【方針③】
まちなかの結びつきを強くする場づくり

【方針④】
KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

【方針⑤】
より安全で安心なまちづくり

○コザらしさを育む ～地域の魅力向上～

- ・ 長く滞在してもらえる安心感のある場所の創出
- ・ コザが有するユニークな歴史・文化・雰囲気を感じて訪れてもらえる場所の創出
- ・ 住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- ・ 様々な人のための交流、憩いの場の創出
- ・ 地域イベントにも活用できる賑わい創出のための溜まり空間の創出
- ・ 商店街と連続する徒歩空間を活用した魅力の創出
- ・ 誰もを受け入れ歓迎する空間（ゲート等）の演出

○繋がる往来 ～都市間のアクセス機能の向上～

- ・ 那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- ・ 路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- ・ まちづくりと連携した駐車場施策の促進
- ・ 行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイン、インフォメーションセンター等の整備

○まちを巡る ～地域内の回遊性向上～

- ・ 市内各所を巡る、バス（路線、循環、シャトル）、タクシー、その他交通手段（シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物等）との連携
- ・ 歩いて巡る、ウォーカブル空間等の創出
- ・ 全ての人にとって居心地の良い空間となるバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進

○まちの顔 ～沖縄市が持つ個性的な空間づくり～

- ・ 国際色豊かで地域と調和した街並みの形成
- ・ KOZA（戦前・戦後の記憶、琉米文化等）が感じられる空間の形成
- ・ 沖縄市独自の景観を活かした玄関口にふさわしい空間の形成（国道330号、中央パークアベニュー、ゲート通り 等）

○安心を紡ぐ ～防犯・防災機能の向上～

- ・ 防災情報（警報、注意報等）や交通機関の運行情報等の情報発信
- ・ 帰宅困難者の避難場所として、交通拠点及び周辺公共空間の活用
- ・ 安全・安心なまちの創出（防犯・交通安全）
- ・ 沖縄サントリーアリーナとの連携 ・Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保
- ・ 無電柱化 ・公共空間等を活用した防災訓練

デザインコード(素案)

デザインコード1:

コザまちまーいを育む空間

都市の骨格を受け止め、隣接する空間を「にじみあう場」として結び、広がる空と緑の中に、路地（すーじぐわー）や軒下（あまはじ）等の半屋外の中間領域、小さな溜まりが連鎖する居心地のよいまちまーい（まち歩き）を創り出す拠点を描く。

デザインコード2:

生き生きとしたコザの表情に溶け込ませる

中央パークアベニューからゲート通りまでをつなぐ連続的な歩行環境を整え、アーケード等の半屋外歩行空間や沿道の軒下空間を活かしながら、都市を横断する動線を自然に受け止める豊かな歩き空間をつくる

デザインコード3:

小さな体験が紡ぐコザ・ライブスケー

点 在する文化や歴史の拠点を大切に、琉米文化が織りなす小さな風景を重ね合わせて「コザらしさ」を紡ぎ出す拠点とする。

デザインコード4:

チャンプルー文化を許容する寛容な空気感

エイサーやストリートスポーツ、日常の営みが交わり、静けさと賑わいが同居する、寛容で受け皿の広いコザ特有の空気感を育む。交通結節点を都市の広場として捉え、移動の効率性と文化的厚みが同居する場として、多様な活動を受け止めていく。

沖繩市交通拠点まちづくり基本計画の取組(案)

方面	施策	取組案
① 沖繩アリーナ	a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり
	b歩行者を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○ベンチ等小休憩場所の整備
	cアクセス機能の向上	○シャトルバス乗り場整備 ○タクシー乗り場整備 ○シェアサイクル等ポート整備 ○バス停等の整備 ○モビリティ・ハブの設置
	d安心して暮らせる場所の創出	○土地区画整理事業 ○生活道路対策
	e誰もが楽しめる居心地のいい環境の創出	○乗り継ぎ利便性向上、待合環境の充実化 ○商店街と拠点連携による賑わいの創出 (周辺エリアの情報発信 等) ○まちなか交流拠点の創出
	fまちの個性を生かしたにぎわいの創出	○宿泊施設の誘致 ○商店街への誘客や交流促進 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○昼の賑わい創出(販売店(日用品)飲食店(カフェ等)) ○駐車場の整備、更新、連携 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり
	gスポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出	○スポーツイベント等 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり
② 沖繩バスターミナル	a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり
	cアクセス機能の向上	○シェアサイクル等ポート整備 ○バス停等の整備
	d安心して暮らせる場所の創出	○生活道路対策
	h沖繩こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出	○県外・県内からの観光客誘致 ○日本一ユニークな施設への整備拡充 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり

方面	施策	取組案
③ 一番街・八重島	a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり ○ベンチ等小休憩場所の整備
	cアクセス機能の向上	○シェアサイクル等ポート整備 ○モビリティ・ハブの設置 ○駐車場を活用した公共交通機能等との連携
	d安心して暮らせる場所の創出	○生活道路対策
	e誰もが楽しめる居心地のいい環境の創出	○乗り継ぎ利便性向上、待合環境の充実化 ○商店街と拠点連携による賑わいの創出 (周辺エリアの情報発信 等) ○まちなか交流拠点の創出
	fまちの個性を生かしたにぎわいの創出	○宿泊施設の誘致 ○商店街への誘客や交流促進 ○中央パークアベニュー整備事業(対面2車線化) ○昼の賑わい創出(販売店(日用品)飲食(カフェ等)) ○駐車場の整備、更新、連携 ○広場や公園等を活用したイベント ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり
④ 沖繩市役所・コザ	a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり
	b歩行者を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり
	cアクセス機能の向上	○シェアサイクル等ポート整備 ○バス停等の整備 ○モビリティハブの設置
	d安心して暮らせる場所の創出	○土地区画整理事業 ○生活道路対策
	fまちの個性を生かしたにぎわいの創出	○商店街への誘客や交流促進 ○昼の賑わい創出(販売店(日用品)飲食(カフェ等)) ○広場や公園等を活用したイベント ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり
共通	i防災機能を向上	○防災力向上の取組

3 基本計画の方針と施策体系

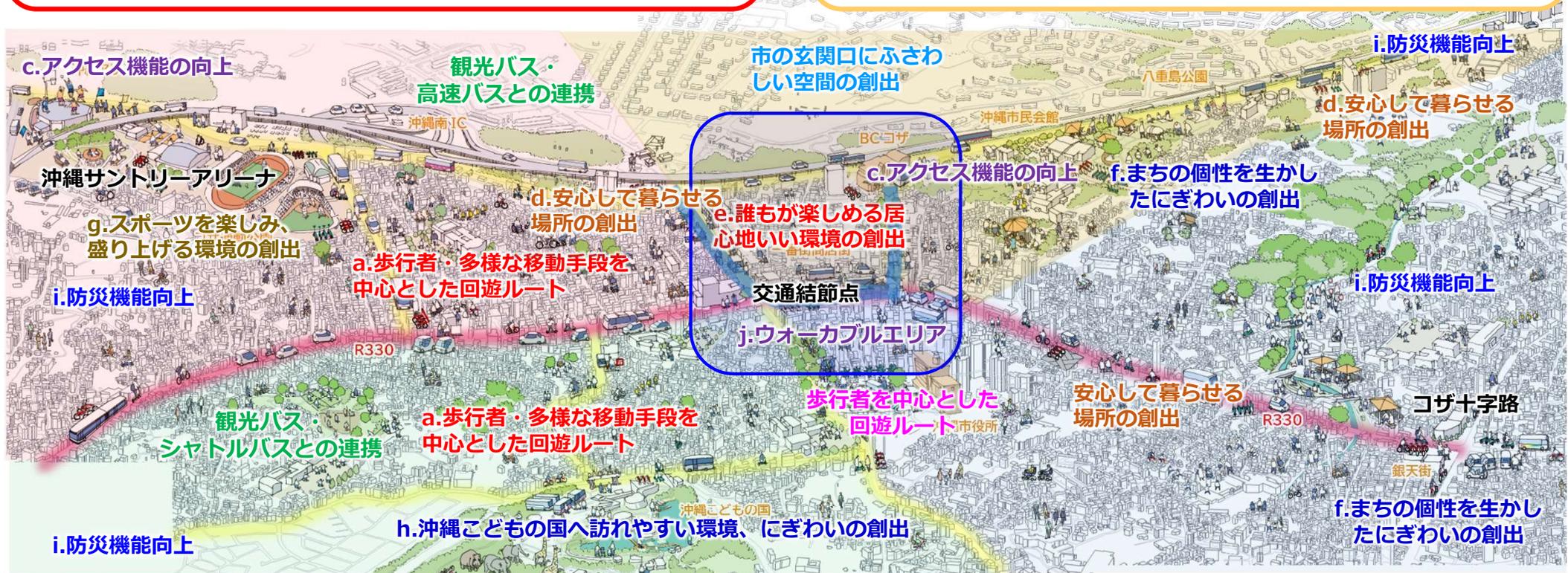
施策と取組案

1. 沖縄アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性(商業・文化・歴史)を活かしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

3. 一番街・八重島方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)を活かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出



2. 沖縄こどもの国方面

1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

4. 沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性(商業・文化・歴史)を活かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

施策と取組案

a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート

【歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり】

来訪者が楽しく歩ける機能(無電柱化)の充実を図る。

道路空間イメージ(例:丸の内仲通り)



出典:官民連携まちづくりポータルサイト(国土交通省都市局HP)

【概要】シェアードストリート(NACTO リ・デザイン例より)

・歩行者を中心とした道路空間(車や自転車等も通行可能)。舗装は歩行者の優先順位を強化するために歩道と統一化を図る。

- ①すべての入り口に警告用のストリップを設置。
- ②配送車両用のエリアをマーク。
- ③ベンチ、プランター、アートワーク、樹木、噴水、ポラード、駐輪場などのストリートファニチャーを使用して、共有スペース内の走行車線を描写。
- ④安全で居心地の良い環境を作り出すため照明を整備。
- ⑤プランターや樹木などの造園。可動プランターを使用した、特定の時間帯の車両の交通アクセスの制限等。



出典:NACTO(Global Street Design Guide)

3 基本計画の方針と施策体系

施策と取組案

fまちの個性を生かしたにぎわいの創出

【駐車場の既存ストック】

既存の駐車場資源を有効活用し、ストックの活用を推進する。

既存駐車場の位置図



出典：沖縄市中心市街地活性化協議会

施策と取組案

fまちの個性を生かしたにぎわいの創出

【駐車場の整備、更新、連携】

来訪者のアクセス性を向上するため、駐車機能(P&R等)の充実を図る。

駐車施設イメージ(例:広島県呉市 呉駅西駐車場)



3 基本計画の方針と施策体系

施策と取組案

i防災機能を向上(商店街を活用した防災の取組)

- 防災情報(警報、注意報等)や交通機関の運行情報等の情報発信

取組イメージ(災害時のデジタルサイネージの活用)



【デジタルサイネージを活用した情報発信のイメージ(地震発生時)】※多言語対応



出典:横浜市記者発表資料(R5.7.19)

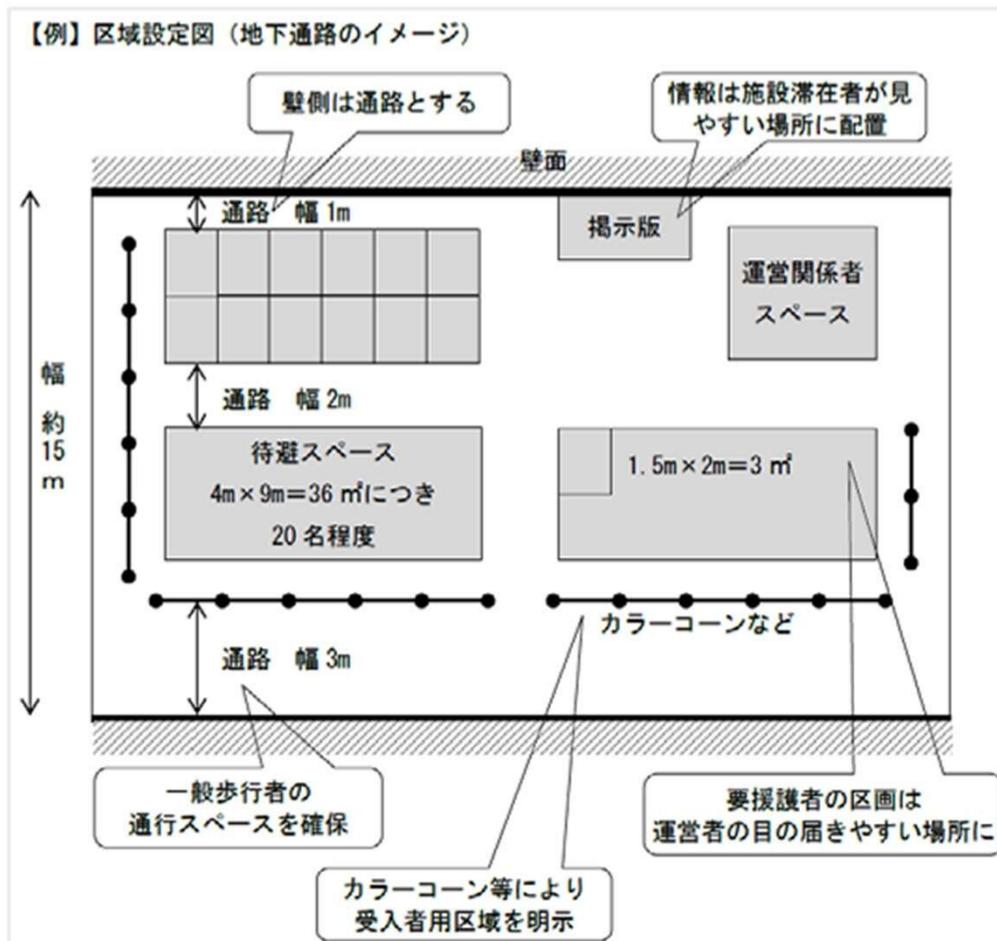
3 基本計画の方針と施策体系

施策と取組案

i防災機能を向上(商店街を活用した防災の取組)

帰宅困難者(地域住民や観光客等)の避難場所としての交通結節点及び周辺公共空間の活用

取組イメージ(帰宅困難者の避難場所としての道路空間の活用)



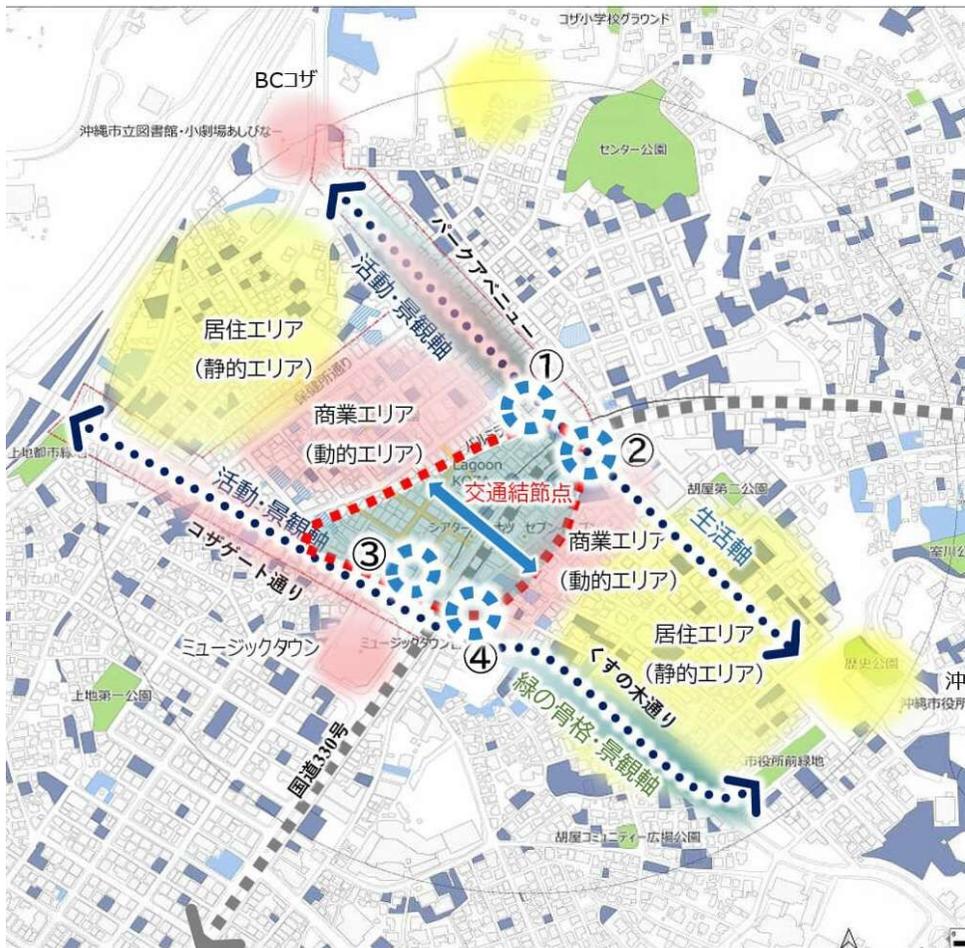
出典:大規模地震の発生に伴う帰宅困難者対策の取組事例集(内閣府)

3 基本計画の方針と施策体系

施策と取組案

j.ウォーカブル

- ・交通結節点を中心とした300～500m程度のエリア及び周辺の施設立地状況を踏まえ、ウォーカブルエリアを設定。
- ・周辺の公園や街路空間等との関係性を踏まえたパブリックスペースの機能・配置方針をもとに、ひと中心の「居心地が良く歩きたくなる」ウォーカブルエリアの創出を図る



配置方針

パークアベニュー・コザゲート通りとの交差点・四つ角に配置

■活動・景観・生活軸を結び回遊性を高める配置

- 交通結節点は、周辺の空間を結びつけ、回遊性を高める役割として、コザの活動・景観軸となっているパークアベニュー・コザゲート通り・くすの木通り等との交点に位置しているため、それぞれの接点となる空間を配置
- ①は、パークアベニューと連続した空間として配置
- ②は、将来的に市役所までつながる道路と連続した空間として配置
- ③は、コザゲート通りやミュージックタウンの広場と連続した空間として配置
- ④は、市役所前の広場・くすの木通りからと連続した空間として配置

■緑の骨格・景観軸を形成する配置

- コザの特徴のひとつであるみどりをパークアベニューからくすの木通り・市役所前の広場までつなぐ役割として、現況のみどりを受け止め・強化する位置に配置ああああああ！ああ

■周辺を繋ぐネットワークの配置

- 交通結節点と、周辺の公園緑地を結ぶ路地も含めた道路街路ネットワーク空間を構築するとともに、道路街路空間そのものにも滞在空間としての機能を構築

機能配置の考え方

活動・景観軸に動的機能、生活軸、緑の骨格・景観軸に静的機能配置

■活動・景観軸には日常・イベント時等の活動に資する機能を配置

- ①③には、日常時・イベント時間問わず賑わい等に資する広場や交流機能等をメインに配置(非常時には防災機能)

■生活軸、緑の骨格・景観軸には落ち着いた空間を形成する機能を配置

- ②④には、落ち着いた空間を形成する植栽や滞留機能等を配置(非常時には防災機能)

3 基本計画の方針と施策体系

役割分担一覧(案)

施策	取組み案	国	県	市	地域 商店街	交通 事業者	民間	大学
a歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○自転車等の走行空間づくり	○	○	○	○		○	
b歩行者を中心とした回遊ルート	○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○ベンチ等小休憩場所の整備	○	○	○	○			
cアクセス機能の向上	○シャトルバス乗り場整備 ○タクシー乗り場整備 ○シェアサイクル等ポート整備 ○バス停等の整備 ○モビリティ・ハブの設置	○	○	○	○	○	○	
d安心して暮らせる場所の創出	○土地区画整理事業 ○生活道路対策			○	○			
e誰もが楽しめる居心地のいい環境の創出	○乗り継ぎ利便性向上、待合環境の充実化 ○商店街と拠点連携による賑わいの創出(周辺エリアの情報発信等) ○まちなか交流拠点の創出	○	○	○	○	○		○
fまちの個性を生かしたにぎわいの創出	○宿泊施設の誘致 ○商店街への誘客や交流促進 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり ○昼の賑わい創出(販売店(日用品)飲食店(カフェ等)) ○駐車場の整備、更新、連携 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり	○	○	○	○		○	○
gスポーツを楽しみ、盛り上げる環境の創出	○スポーツイベント等 ○歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり			○	○		○	
h沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出	○県外・県内からの観光客誘致 ○日本ユニークな施設への整備拡充 ○地域の特色を生かしたユニークな空間・景観づくり			○				
i防災機能を向上	○防災力向上の取組	○	○	○	○	○	○	
jウォーカブル	○コザの音楽や歴史・文化の継承 ○通りの特色を活かした景観づくり ○昔と今を融合した商店街等の形成 ○花やみどりにあふれたひと中心の通り ○人々が集い・滞留し、居場所となる空間づくり ○分かりやすく魅力ある案内表示等の整備 ○交通結節点を拠点にした回遊性の促進	○	○	○	○			○

交通結節点の整備の必要性

沖縄本島中南部都市圏、中部圏における現状・課題と方向性	
中南部都市圏の都市及び交通の現状と課題	中南部都市圏の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・都市拠点の分散抑制や郊外化の抑制 / ・都心部(那覇市・沖縄市)の魅力向上、低密度化の改善 ・高齢者も安心して出かける環境の構築 ・通学のための環境充実と送迎負担の軽減 / ・過度な自動車依存からの脱却と慢性的な渋滞解消 ・都市圏の軸を基幹としたシームレスな公共交通網の構築 ・観光二次交通にも資する交通環境の構築 / ・多様なライフスタイルの支援 	<p>【コンパクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点の位置づけ、求める機能の明確化と機能集約 -広域的な活動を支える2つの都市拠点(那覇市、沖縄市) <p>【ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点間を強力に接続する安定的で持続的な総合交通システムの構築(交通NW) ・公共交通の基盤にもなる骨格的な道路網整備と機能に応じた階層化(道路NW)



沖縄市胡屋地区における現状・課題と方向性	
沖縄市胡屋地区における交通の現況	
<p>【現況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胡屋十字路周辺は、三大都市圏に近い渋滞傾向にある。 ・市民は沖縄本島中南部都市圏よりも車利用の割合が多い。 ・本市の自動車保有台数は増加。 ・胡屋バス停は路線バス利用者が市内で最も多く、通過する系統が集中。 ・市全域を運行している循環バスが、胡屋地区を經由。 ・胡屋地区周辺には沖縄南ICが位置している。 ・市民は路線バス利用も念頭にある一方、バス利用は利便性に問題があるとの認識。 	
まちづくり・活性化（交通視点からの整理）	
居住	商店街活性化・集客施設との連携
<p>【ポテンシャル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の人口は増加傾向。 / ・胡屋地区の人口は近年微増の傾向。 ・本地区は、昭和56年以前の建物(更新時期の建物)が多く、新築も数件みられる。 ・本市は中心市街地の居住促進事業を実施。 / ・土地区画整理事業を実施。 <p>【懸念事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住環境向上による人口の増加、自動車保有台数の増加による市内の交通渋滞の悪化。 ・渋滞回避車両の生活道路への流入による、事故の増加。 ・高齢化の進展に伴う、事故の増加。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用促進。 / ・生活道路への通過交通対策。 	<p>【ポテンシャル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胡屋地区は市内商店街の内、営業店舗数が最も多く、新規出店も見られる。 ・来訪目的として飲食が目立ち、歩行者数が他商店街より多い。 ・胡屋地区商店街と沖縄アリーナで連携した取り組みが実施されている。 ・集客施設(観光含む)が周辺に立地。 / ・中の町と一番街の回遊性を確認。 <p>【懸念事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車(レンタカー)での来訪が多くなることによる、交通渋滞の悪化。 ・駐車場を探す際のうろつき交通発生による、事故の増加。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用促進。 / ・周辺施設移動支援。(シェアサイクル、小型モビリティ等) ・居心地がよく歩きたくなるまちなかの推進。

広域移動と地域内移動をつなぎ中心市街地活性化と連携を図った

胡屋交通結節点の整備が必要

整備コンセプト

沖縄本島中南部都市圏都市交通マスタープラン

都市	クルマのみに頼らず暮らす (安心・安全性の向上)	<ul style="list-style-type: none"> 必要な機能をまちの中心に集め、歩いて活動できる空間を整備 →用事ごとにクルマで場所を移動する必要をなくす 送迎に頼らなくても自由に行きたい場所に移動できるような交通環境を整備 →クルマ利用環境の有無で交通弱者を生まない
道路	楽しみに使える時間を増やす (移動時間の縮減)	<ul style="list-style-type: none"> 費用負担の問題で公共交通を選択できない状況無くす 地図で分かる階層的で使いやすい交通ネットワークを整備 →行先や目的で利用する交通手段を自由に使い分けられる 交通ネットワークへのアクセス環境や乗り継ぎ環境を整備する
交通	移動をもっと自由にする (移動コストの緩和)	<ul style="list-style-type: none"> 運転時間を減らし、楽しみに使える時間を増やす →郊外化とクルマ移動で増加を続ける混雑を緩和 便利で使いやすい公共交通のネットワークとその利用環境の整備 →“遅延なく確実に”行きたい場所に行ける

那覇・宜野湾・沖縄の都市拠点を軸に、都市圏全体で「多核連携・軸上都市構造」を目指す

南北骨格軸：都市拠点、基地跡地利用拠点、広域交通拠点、高密度な都市的な土地利用が連担した中南部都市圏の主要なエリアであり、都市圏における様々な活動が集中する軸

都市拠点（那覇市・沖縄市）：都市圏における多様な都市活動を支える高次の都市機能が集積し、様々な文化や交流が集う拠点



沖縄市交通拠点整備基本構想

KOZAのみんなで作る活力に満ちたまち

- 方針①誰もが楽しめる、居心地が良い場づくり
- 方針②まちとまちの結びつきを強くする場づくり
- 方針③まちなかの結びつきを強くする場づくり
- 方針④KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり
- 方針⑤より安全で安心なまちづくり

沖縄市交通拠点まちづくり基本計画

- コザらしさを育む ～地域の魅力向上～
- 繋がる往来 ～都市間のアクセス機能の向上～
- まちを巡る ～地域内の回遊性向上～
- まちの顔 ～沖縄市が持つ個性的な空間づくり～
- 安心を紡ぐ ～防犯・防災機能の向上～

交通拠点内の方面別の方向性

沖縄アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かした賑わいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

こどもの国方面

1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

一番街・八重島方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かした賑わいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出

沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かした賑わいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

デザインコード

デザインコード1:

コザまちまーいを育む空間

都市の骨格を受け止め、隣接する空間を「にじみあう場」として結び、広がる空と緑の中に居心地のよいまちまーいを創り出す拠点を描く。

デザインコード2:

生き生きとしたコザの表情に溶け込ませる

中央パークアベニューからゲート通りまでをつなぐ連続的な歩行環境を整え、都市を横断する動線を自然に受け止める豊かな歩き空間をつくる。

デザインコード3:

小さな体験が紡ぐコザ・ライブスケープ

点在する文化や歴史の拠点を大切に、琉米文化が織りなす小さな風景を重ね合わせて「コザらしさ」を紡ぎ出す。

デザインコード4:

チャンプルー文化を許容する寛容な空気感

エイサーやストリートスポーツ、日常の営みが交わり、静けさと賑わいが同居する、寛容で受け皿の広いコザ特有の空気感を育む。

広域移動と地域内移動をつなぎ中心市街地活性化と連携を図った整備コンセプト

『南北を結ぶ交通拠点を形成』 ～歴史・文化・人を紡ぎ、世界にひらく活力みちたまち KOZA～

まちづくりから考える交通結節点に必要な機能

- 前節の整備コンセプトを具体の整備内容へ落とし込むため、本節では、第2回胡屋地区交通結節点整備検討委員会において示された、①交通機能、②交流等機能、③防災機能の3つの観点から整理した。

交通機能

【必要機能（骨子案）】

- ① 利用者の利便性を高める環境の構築
例) バス乗降施設、待合施設、多様な支払い決済施設・設備、トイレ・授乳施設、ユニバーサルデザイン、タクシー乗降施設、シェアリングモビリティ、P&R施設・自家用送迎乗降施設等



- ② 公共交通事業の維持確保につながる環境の構築
例) 運転手の休憩施設、操車場、停留場、連節バス、EVバス等



交流等機能

【必要機能（骨子案）】

- ③ 周遊促進や中心市街地への誘導による、地域の賑わいの創出
例) ウォーカブルな道路空間、サイン等



- ④ 都市の拠点としての空間やチャンブルー文化を活かした交流・支援活動の創出
例) 景観デザイン、観光バス乗降施設、広場、まちづくり拠点、案内施設等



防災機能

【必要機能（骨子案）】

- ⑤ 防災機能の強化
例) 災害対応車両の駐車施設、無電柱化、情報発信施設、非常用電源等



参考) 第2回胡屋地区交通結節点整備検討委員会資料

4 交通拠点まちづくりの核となる交通結節点

まちづくりから考える交通結節点に必要な機能

交通機能

- 交通結節点の交通機能は、単なる乗降場ではなく、まちづくりの核としての役割を担う。那覇・うるまを結ぶ基幹バス、市内循環や他市町村との接続強化による夜間バス、アリーナシャトル、観光バスなど多様な移動を支えることで、住民の日常と観光・イベントをつなぐ拠点となる。
- また、上下線を結ぶ空間を交流や案内の場として活かし、ゲート通りやくすの木通りとの連続性を高めることで、まちの活力を生み出す交通拠点にふさわしい歩行者空間と賑わいを創出する。交通を「地域体験」として設計することにより、利便性と魅力を両立したまちの顔を形成することが必要である。

機能	内容	まちづくり的意義	基本計画
基幹バスとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 那覇向け、うるま市向けを分離配置。基幹バス路線網との交通結節点に位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄本島東西軸の要衝として、広域移動と市内生活をつなぐ都市拠点の核となる 	繋がる往来
路線バス、市内循環・夜間・シャトルバス対応	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス、循環バス、夜間バス、シャトルバスなど多様な市内外交通への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生活利便性を高めるとともに、夜間経済やアリーナ来訪者の回遊を支援 	まちを巡る
施設間を円滑に繋ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 施設間を円滑に繋ぐ機能 	<ul style="list-style-type: none"> 単なる移動動線にとどまらず、人が集い滞在する公共広場として都市活力を生む 	コザらしさを育む
多様な移動手段への対応	<ul style="list-style-type: none"> 自転車、タクシー、シェアモビリティ、徒歩などの円滑な接続 	<ul style="list-style-type: none"> 交通の多様化に対応し、環境負荷低減や多世代利用を促進する柔軟な都市交通拠点 	まちを巡る
自家用交通との乗り継ぎ円滑	<ul style="list-style-type: none"> 自家用車でのK&R（キスアンドライド）、P&R（パークアンドライド）との円滑な接続 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の移動利便性を高め、環境負荷の低い持続可能なまちづくりを促進する 	繋がる往来
観光バス対応	<ul style="list-style-type: none"> 一時待機・乗降スペース整備。観光客への案内・動線の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の快適な来訪を支え、商店街や文化施設への誘導による地域経済活性化を促進 	繋がる往来
歩行回遊性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 南北（ゲート通り）・東西（くすの木通り）軸やパークアベニュー通り等と連携し、回遊性を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 都市軸をつなぐ交点として、回遊性とにぎわいを創出する「まちの玄関口」を形成 	繋がる往来

4 交通拠点まちづくりの核となる交通結節点

交流機能等

- 胡屋交通結節点の交流等機能は、音楽や舞台芸術など地域文化を発信する場であると同時に、商店街や観光資源と連動した賑わいを創出する拠点であることが必要とされてます。
- 市民や学術団体をはじめとする様々なプレイヤーが関わる運営や、子育て・高齢者にも配慮した居場所づくりにより、多世代に親しまれる公共空間を形成することが必要とされてます。
- 地域デザイン部会におけるデザインコードなどを踏まえた景観形成の取組みも踏まえつつ、交通結節点にふさわしいまちの顔をつくることが求められています。

機能	内容	まちづくり的意義	基本計画の方針
歩行回遊性の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 南北(ゲート通り)・東西(くすの木通り)軸やパークアベニュー通り等と連携し、回遊性を強化 	<ul style="list-style-type: none"> • 都市軸をつなぐ交点として、回遊性とにぎわいを創出する「まちの玄関口」を形成 	繋がる往来
多様な文化との連携発信機能	<ul style="list-style-type: none"> • ミュージックタウン等と連携し、野外演奏やストリートライブなどの展開の場 • 地域文化を発信する小劇場的空間などの要素を取り入れるなど、多様な表現活動を支援の場 • 他多様な地域資源の案内・発信 	<ul style="list-style-type: none"> • 胡屋らしい音楽文化を可視化し、若者や来訪者を巻き込んだにぎわいと地域アイデンティティを強化 • 音楽に加え多様な文化芸術を発信することで、地域全体の文化厚みと交流の幅を広げる • 観光客の理解と回遊を促し、地元商店街や文化施設との接点を強化 	繋がる往来
市民参加、教育・研究機関連携機能	<ul style="list-style-type: none"> • 市民や団体が参画する運営体制 • 学術団体等と連携し、社会実験や調査研究、空間運用の実践を展開 	<ul style="list-style-type: none"> • 公共空間を「地域のまちづくり」や「学びと実践の場」として位置づけ、次世代人材や知的資源を地域に循環 	コザらしさを育む
スポーツ交流機能	<ul style="list-style-type: none"> • アリーナ・運動公園と連携し、試合・イベント来訪者の交流や体験の場を提供 	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツ観戦やイベントを契機に人の流れを生み、地域全体の賑わいにつなげる 	コザらしさを育む
子育て・家族対応機能	<ul style="list-style-type: none"> • 子育て対応、親子で安心して利用できる環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> • 子育て世代が安心して滞在できる環境を整えることで、多世代が集う持続的な公共空間を形成 	コザらしさを育む
景観形成機能	<ul style="list-style-type: none"> • 都市軸の玄関口としての象徴性と商店街との連続性。「コザらしさ」を反映した景観形成 	<ul style="list-style-type: none"> • 「コザらしさ」を取り入れた景観により、地域らしさと都市的魅力を両立させる 	まちの顔

防災機能

- 胡屋交通結節点の防災機能は、災害対応にとどまらず、まちづくりの基盤として重要です。老朽建物が多い商店街周辺に安全な一次滞在空間を確保することで、日常の安心感を高め、地域居住や来街の促進につながります。
- また、平常時は広場や交流空間として活用し、非常時には物資集積や仮設施設へ転用できる多目的性を持たせることで、公共空間の価値を最大化します。
- さらに、電力や通信などの防災インフラを備え、公民館や防災会と連携した訓練・啓発を重ねることで、地域の共助体制を育み、持続可能なまちづくりを支える拠点となります。

機能	内容	まちづくり的意義	基本計画の方針
一次滞在機能の確保	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街など老朽建物密集地に隣接する広場を避難場所として整備 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常的な安心感を提供し、来街や居住継続を支える 	安心を紡ぐ
空間の防災活用	<ul style="list-style-type: none"> • 平常時は交流・賑わい空間、非常時は物資集積に転用可能 	<ul style="list-style-type: none"> • 公共空間の二重利用により、維持管理コストを軽減し活用度を高める 	安心を紡ぐ
防災インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> • 太陽光発電、蓄電池、非常用照明、Wi-Fi、掲示板、仮設トイレ等 	<ul style="list-style-type: none"> • 日常的には快適性・利便性を提供し、災害時は即応可能 	安心を紡ぐ
地域連携・訓練体制	<ul style="list-style-type: none"> • 公民館・防災会・地域団体と協働した避難訓練や啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニティの結束を強化し、共助型まちづくりを推進 	安心を紡ぐ
建物倒壊リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> • 老朽化建物の多いエリアの安全確保を踏まえた空間整備 	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街再生や都市更新と一体的に進めることで、災害に強いまちづくりを促進 	安心を紡ぐ

両側設置案の検討経緯

・ 沖縄市交通拠点整備基本構想では交通結節点の設置案が示されている。交通結節点の検討にあたり、沖縄市交通拠点整備基本構想検討委員会では、当初、「一番街商店街に隣接して整備する案」が示された。バス事業者意見（那覇方面の定時速達性の観点等）及びパブリックコメントなどを経て、「うるま市向け・那覇向け分離して整備する案」を基本とすることを確認

一番街商店街隣接整備案

※下記の図は配置（案）であり、決定したものではありません。



【概要】
 ・ 一番街商店街に隣接して交通結節点を整備する案

【想定される効果】
 ・ 商店街に隣接しているため、交通結節点利用者等が商店街に来訪する等、にぎわいの創出につながる

【留意点】
 ・ 那覇向けのバスを右折で引き込む必要があることから、バスの定時性の低下が想定される

うるま市向け・那覇市向け分離整備案

※下記の図は配置（案）であり、決定したものではありません。



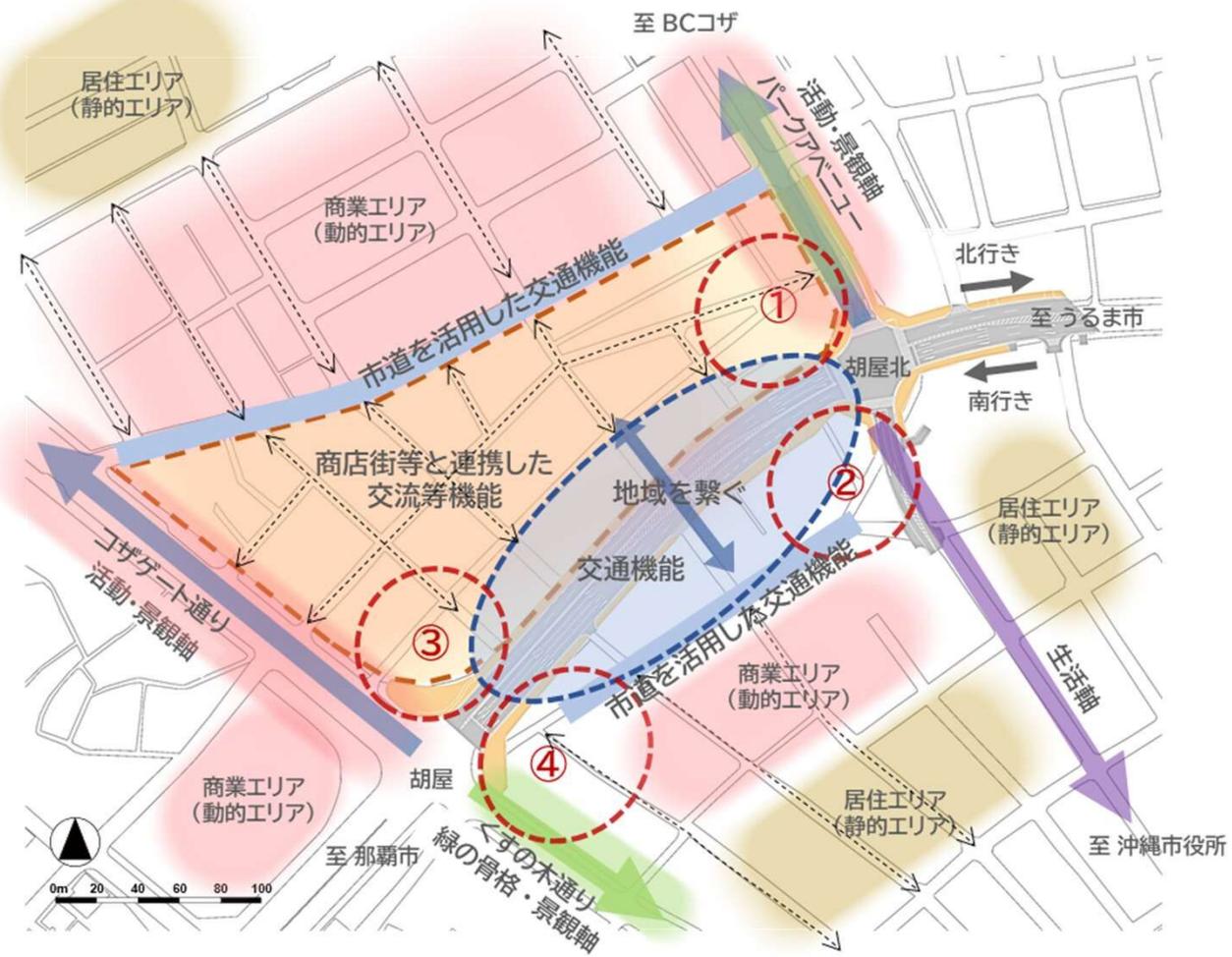
【概要】
 ・ 左記案に加え、那覇向け側も交通結節点を整備する案

【想定される効果】
 ・ 商店街に隣接しているため、バス利用者等が商店街に来訪する等、にぎわいの創出につながる
 ・ 那覇向けのバスを引き込まずに済むため、定時性の確保が想定される

【留意点】
 ・ 那覇向け・うるま市向けで、交通結節点利用者の動線と繋げる工夫が必要

整備イメージ

- まちの中心となる交通結節点について、パブリックスペース（ウォークブルエリア）の方向性で示した、配置方針等を踏まえ、各活動・景観軸、生活軸、緑の骨格・景観軸との接続空間を創出し、結節点と一体となった空間とする。
- また隣接する商店街等と連携した交流等機能の強化を図るとともに、既存道路を活用した交通機能を配置することで、商店街を回遊する歩行者の増加を図る。



配置方針	
← 活動・景観軸	① パークアベニューと連続した空間
← 生活軸	② 市役所までつながる道路と連続した空間
← 緑の骨格・景観軸	③ コザゲート通りミュージックタウン広場と連続した空間
← - - - 地区内歩行者動線	④ 市役所前の広場・くすの木通りから連続した空間

交通結節点	機能配置
<ul style="list-style-type: none"> 交通機能 (非常時は防災機能) 交流等機能 (非常時は防災機能) 	<ul style="list-style-type: none"> 商業エリア (動的エリア) 居住エリア (静的エリア) 日常・イベント等活動に資する機能 (活動・景観軸) 落ち着いた空間を形成する機能 (生活軸) 緑の骨格・景観軸

整備イメージ

参考) デザインコードの視点からのイメージパースの解説

- 基本構想で示した交通結節点と商店街の連続（既公表）を“核”とし、本計画ではその核を起点に、広場の使いこなし、ユニバーサルな歩行動線の確保、国道330号を越える接続へと段階的に拡張し、拠点まちづくりの具体像としてデザインコードの視点からイメージ化を図った。

● 交通結節点と連続した商店街のイメージ

- 本半屋外の連続空間により歩行体験の質を高め（DC1）、商店街の表情に馴染ませ（DC2）、小さな体験が点在する回遊を生み（DC3）、交通と交流の同居を受け止める（DC4）姿を表現している。



● 商店街と広場が一体で賑わうイメージ

- 商店街と広場を連続させ、歩いて巡れる心地よさ（DC1）と街並みの馴染み（DC2）を基盤に、小さな行為の積み重ねで賑わいを育み（DC3）、多様な使われ方を受け止める（DC4）姿を表現している。



※これはイメージであり、決定したものではありません。

整備イメージ

● デッキ上から商店街と広場を眺めるイメージ

- デッキ上の視点場から賑わいを眺め、開放感と連続動線で回遊を誘う（DC1）とともに、街並みに馴染ませ（DC2）、見える活動が行動を促す（DC3）、UD対応で多様性を受け止める（DC4）姿を表現している。



● 国道330号をデッキで接合し広場・商店街と一体整備したイメージ

- 商店街と広場を連続させ、歩いて巡れる心地よさ（DC1）と街並みの馴染み（DC2）を基盤に、小さな行為の積み重ねで賑わいを育み（DC3）、多様な使われ方を受け止める（DC4）姿を表現している。



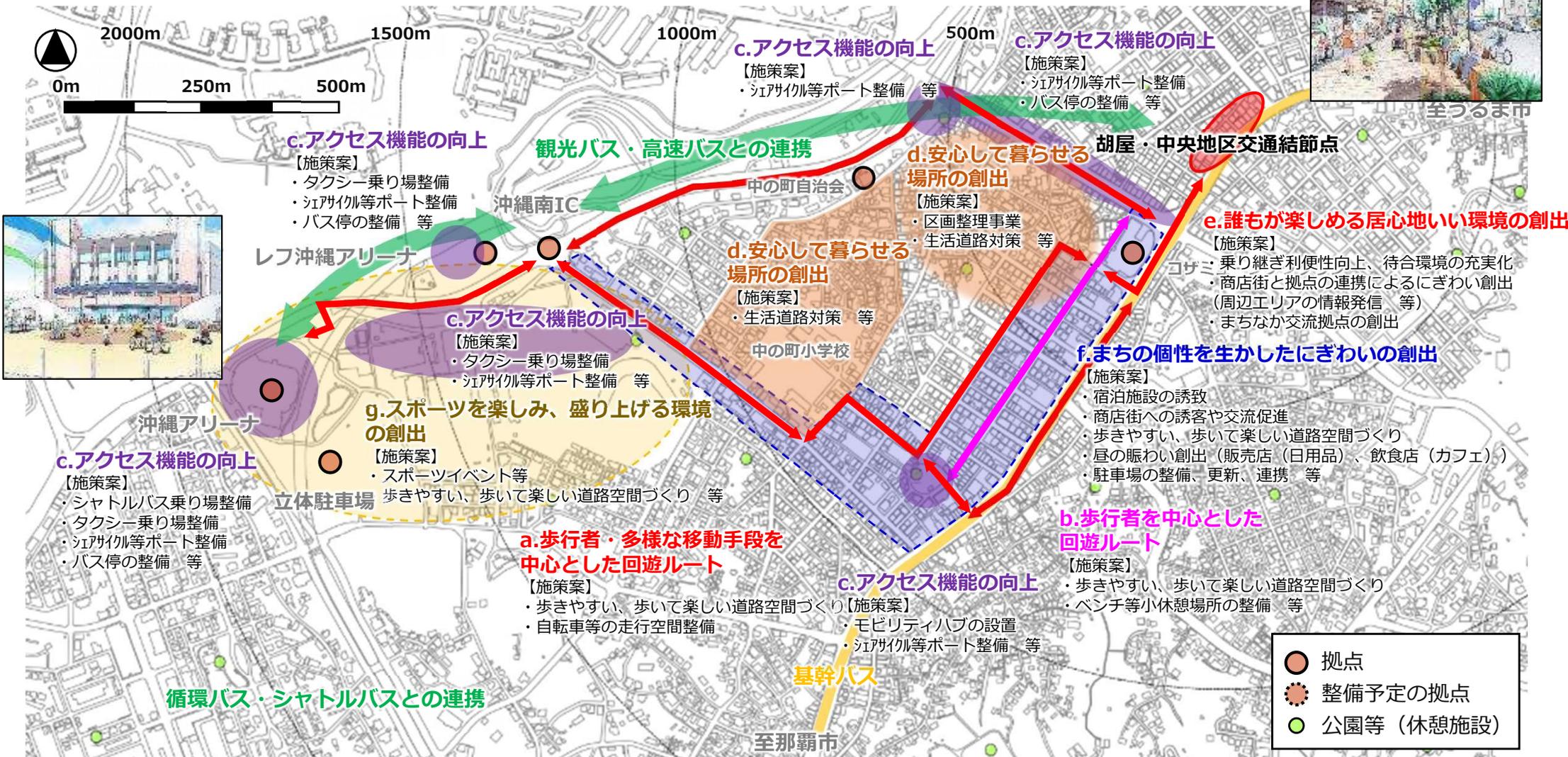
※これはイメージであり、決定したものではありません。

5 方面別ロードマップ

○沖繩アリーナ方面

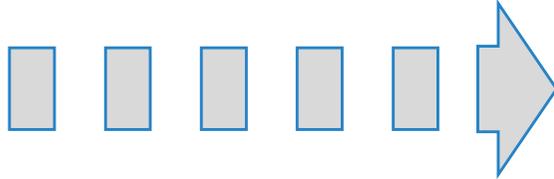
① 沖繩アリーナ方面

1. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出



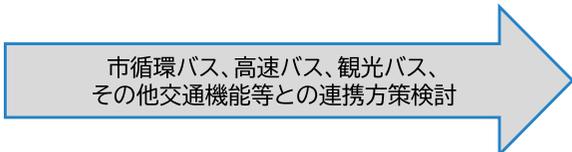
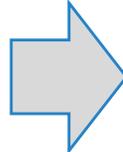
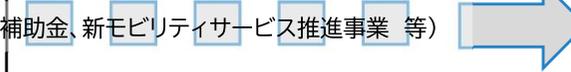
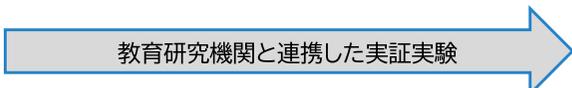
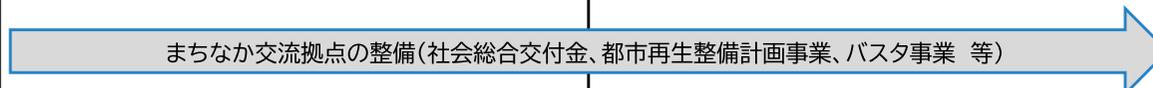
○沖縄アリーナ方面

※役割分担は今後の検討課題

	短期(1～5年)	中期(5～10年)	長期(10年～)
a. 歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート b. 歩行者を中心とした回遊ルート			
歩きやすい、歩いて楽しい 道路空間づくり ベンチ等小休止場所の整備	ウォーカブル推進 計画検討	道路空間の再構築 (都市再生整備事業(まちなかウォーカブル推進事業 等))	
自転車等の走行空間整備	自転車NW 計画検討	自転車走行空間の整備 (都市再生整備事業(まちなかウォーカブル推進事業 等))	
c. アクセス機能の向上			
モビリティハブの整備 シャトルバス乗り場 タクシー乗り場 シェアサイクルポート バス停整備 等	必要機能、適地の検討	モビリティ・ハブの整備(社会総合交付金、防災・安全交付金、地域公共交通確保維持改善事業費補助金 等)	
d. 安心して暮らせる場所の創出			
区画整理事業	区画整理事業(都市再生総合整備事業(社総金) 等)		
生活道路対策	生活道路対策の実施(交通安全対策補助制度 等)		

○沖繩アリーナ方面

※役割分担は今後の検討課題

	短期(1~5年)	中期(5~10年)	長期(10年~)
e.誰もが楽しめる居心地いい環境の創出			
乗り継ぎ利便性向上	 <p>交通結節点整備(バス事業、社会総合交付金、防災・安全交付金、地域公共交通確保維持改善事業費補助金、新モビリティサービス推進事業 等)</p>  <p>市循環バス、高速バス、観光バス、 その他交通機能等との連携方策検討</p>		 
待合環境の充実化	 <p>待合環境の整備(バス事業、社会総合交付金、防災・安全交付金、地域公共交通確保維持改善事業費補助金、新モビリティサービス推進事業 等)</p>		 
商店街と拠点の連携による賑わい創出	 <p>商店街活性化支援事業(中活計画)</p>	 <p>商店街活性化支援事業</p>	 <p>商店街活性化支援事業</p>
	 <p>沖繩サントリーアリーナと商店街との連携</p>		
まちなか交流拠点の創出	 <p>教育研究機関と連携した実証実験</p>	 <p>まちなか交流拠点の整備(社会総合交付金、都市再生整備計画事業、バス事業 等)</p>	

○沖縄アリーナ方面

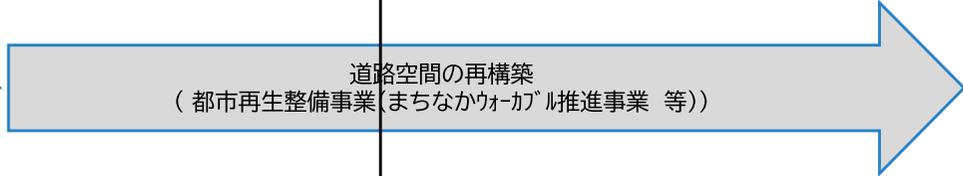
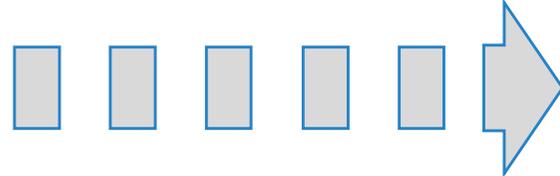
※役割分担は今後の検討課題

	短期(1～5年)	中期(5～10年)	長期(10年～)
f. まちの個性を生かしたにぎわいの創出			
宿泊施設の誘致	宿泊施設等の観光関連産業の誘致(中活計画)		
商店街への誘客や交流促進 昼の賑わい創出(販売店(日用品)、飲食店(カフェ))	商店街活性化支援事業(中活計画)	商店街活性化支援事業	
駐車場の整備、更新、連携	P&R駐車場の適地検討	P&R駐車場の整備(優良建築物制度の活用 等)	
g. スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出			
スポーツイベント等	スポーツ振興事業(中活計画)	スポーツ振興事業	
	アーバンスポーツパーク(中活計画)		

5 方面別ロードマップ

○沖繩アリーナ方面

※役割分担は今後の検討課題

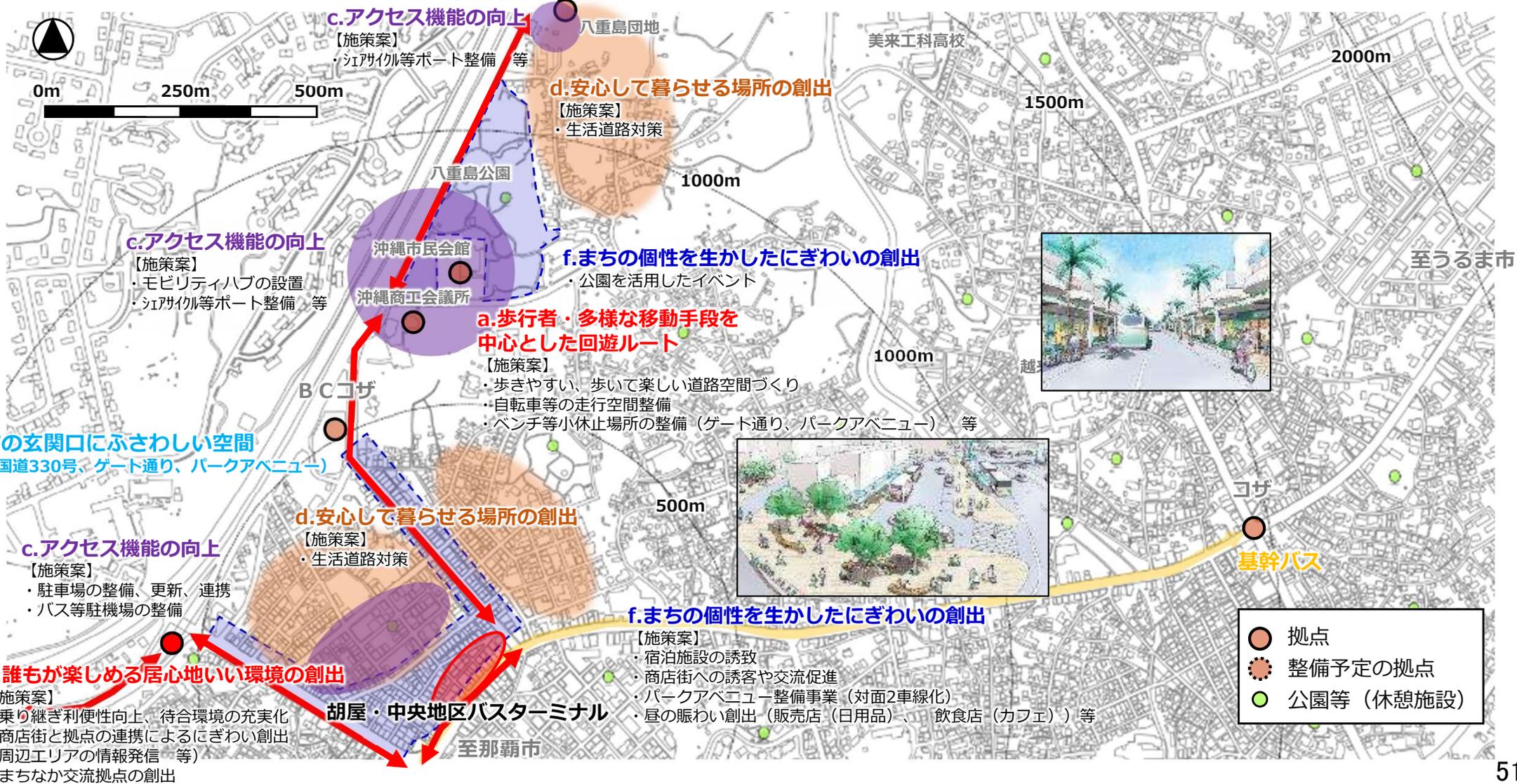
	短期(1～5年)	中期(5～10年)	長期(10年～)
ウォークابل			
全体(ウォークابل区域) ・コザゲート通り ・一番街商店街周辺 ・交通結節点及び周辺 ・中央パークアベニュー	 ウォークابل推進 計画検討	 道路空間の再構築 (都市再生整備事業(まちなかウォークابل推進事業等))	

5 方面別ロードマップ

○一番街・八重島方面

③ 一番街・八重島方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出

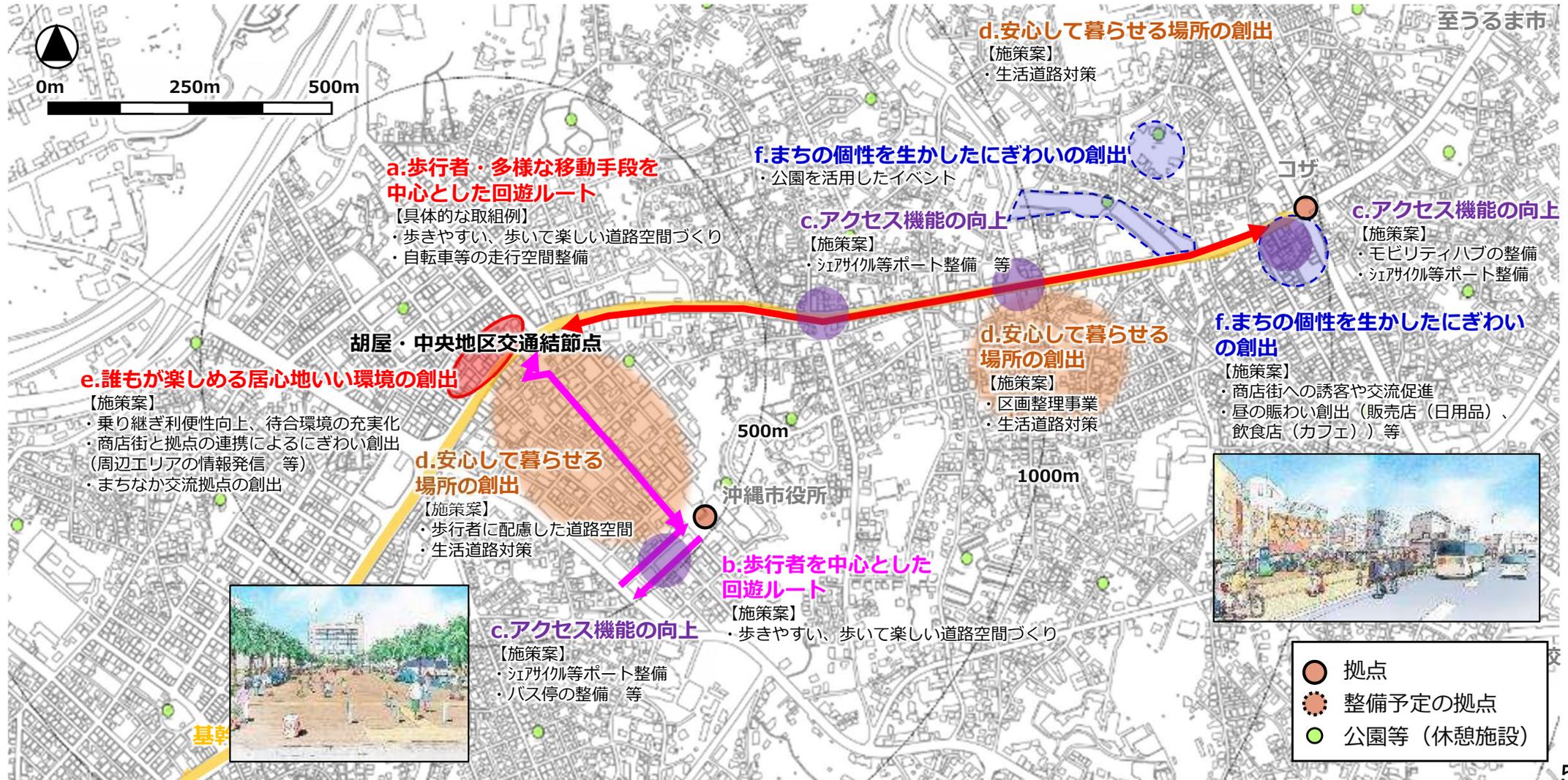


5 方面別ロードマップ

○沖繩市役所・コザ方面

④ 沖繩市役所・コザ方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出



○推進体制

- ・ 胡屋地区交通結節点整備検討委員会・公共交通活性化推進協議会・沖縄県地域公共交通会議等との連携・役割分担

沖縄市交通拠点まちづくり検討委員会 第1回：R6.10 第2回：R7.3

【主な役割】

- ・ 交通拠点と連携した周辺まちづくりの検討推進

【事務局】

- ・ 沖縄市

下部組織：地域デザイン検討部会 等

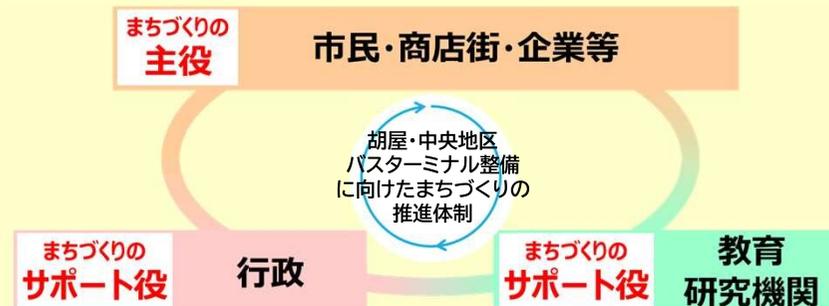
【主な役割】

- ・ 地域を含むまちづくりの連携強化

【事務局】

- ・ 沖縄市

連携



連携

胡屋地区交通結節点整備検討委員会

第1回：R6.10 第2回：R7.3

【主な役割】

- ・ 全体取りまとめ・総括
- ・ 各検討会での議論を踏まえた交通拠点に導入すべき
具体機能の検討

【事務局】

- ・ 沖縄市、沖縄県、沖総局、南部国道事務所

連携

沖縄県公共交通活性化推進協議会

第46回：R6.9 第47回：R7.3

沖縄県地域公共交通協議会

第3回：R7.1

【主な役割】

- ・ 基幹バスシステムの導入、バスレーン
- ・ 沖縄県地域公共交通計画の作成・実施

【事務局】

- ・ 沖縄県

5 今後のすすめ方

上位関連計画の動向を踏まえた計画の整合性

- 今後、以下に示す上位関連計画等の策定の動向を踏まえ整合を図る

(想定される上位関連計画)

- 立地適正化計画
- ウォークブル推進計画
- 仮)都市再生整備計画 等

モニタリングの仕組み

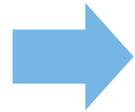
- 本計画は、様々な取組みと一体となって実現に向けて取組むことが必要とされている。交通結節点および周辺の拠点まちづくりの実現に向けた検討段階から運用段階まで、関係機関・研究機関等と連携し、平日・イベント時等の利用実態を継続的に把握・共有することで、関連施策の内容や運用の改善、段階的な実装に反映するものとする。

今後のスケジュールについて

沖縄市

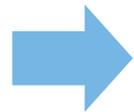
1/27 (火)

第4回
沖縄市交通拠点まちづくり
検討委員会



1/28 (水) ~ 2/26 (木)

沖縄市交通拠点まちづくり基本計画
パブリックコメント



3/4 (水)

第5回
沖縄市交通拠点まちづくり
検討委員会

資料4

2/18 (水)

第3回
地域デザイン部会

1/20 (火)

沖縄県
令和7年度
第4回沖縄県地域公共交通会議

沖縄県・沖縄市・沖縄総合事務局

2/18 (水)

沖縄県・沖縄市・沖縄総合事務局
第3回胡屋地区交通結節点整備
検討委員会

3/25 (火)

沖縄県
沖縄県公共交通活性化推進協議会